

秘

香川
高松地方
裁判所
縣

第十三回大阪控訴院管内小作調停事務協議會要錄

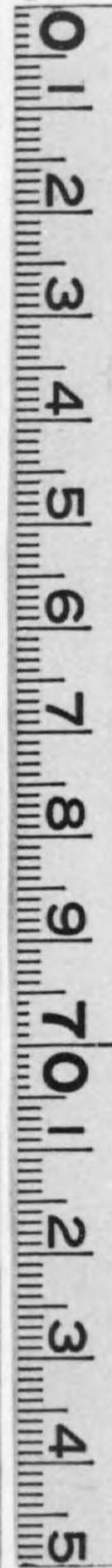
昭和十一年十月開催

(代勝寫)

14.5-601



601



始



目次



【附】

最近ノ各種調停條項事例

五七

第一 小作調停事務協議會日程

第二 佐藤香川縣知事挨拶要旨

第三 大野高松地方裁判所長挨拶要旨

第四 協議事項

第五 協議ノ概要

第六 協議會出席者名簿

五三



頁	行	正誤	頁	行	正誤
一五	六	問△、開ノ	四二	十	高松判△高松地ノ
一五	九	(7)ノ	四二	十七	小堀書記脱
一五	十四	テ、テノ	四二	十七	明確ハノ三字不用
一七	六	場合ニテ一場合ニモノ	四二	十八	存續スルカガノカ脱
一七	六	作ラナイ(ト云フ)脱	四三	十二	申上ケルノ上脱
二〇	十七	タ、不用	四三	三	青判木事ハ青木判事ノ
二二	四	賃、不用	四四	三	青判木事ハ青木判事ノ
二二	十	「地主ニ」ハ地主ハノ	四五	二	高知地ノ地脱
二三	十五	少ハ小ノ	四五	九	遺フルノフ不用
二五	九	興ハ興ノ	四六	十	悪定トハ何カ悪意ノ
二六	三	裁所長ハ裁判長ノ	四六	十六	瘦數移込トハ何カ
二六	十	テハテノ	四七	十三	替ツテハ遺ツテノ
二七	十六	欲ハ歌ノ	四七	十五	省ノ字脱
二九	十四	成テハ、在テハノ	四九	七	實ルハ遺ルノ
三〇	十二	格價ハ、價格ノ	四九	七	遺ツテオアルハ遺ノ
三八	十七	仮差押假所分ノ假脱	四九	八	遺ハ遺ノ
三九	九	ナツテノテ脱	四九	九	同上
三九	九	其上ニ一其上テノ	五〇	十四	收米ハ將來ノ
四〇	九	德ノ下島脱	五〇	五	全ハ金ノ
四〇	十六		五二	十一	ニハハノ

高松地方裁判所玄関ニ於テ出席者記念撮影

- 佐々木徳島小作官
- 山尾香川小作官
- 宮脇警察部長
- 山下高松列事
- 戸澤特高課長
- 杉山檢事
- 中口高松列事
- 沖森經濟部長
- 三好農業經濟課長
- 鈴木高松列事
- 内藤京都小作官
- 佐藤香川縣知事
- 平岡丸龜列事
- 高木和歌山小作官
- 黒瀬徳島列事
- 廣部滋賀小作官
- 田邊農林省小作官
- 松島兵庫小作官補
- 田中奈良小作官補
- 月山大阪列事
- 奥野司法書記官
- 鹽田兵庫小作官
- 花淵神戸列事
- 眞田高知小作官補
- 津田高松列事
- 佐藤大津列事
- 織谷高知列事
- 村上京都列事
- 柴藤高松列事
- 内海香川小作官補
- 青山奈良小作官
- 古賀檢事正
- 谷高松列事
- 押坂監督書記
- 神山高松列事
- 松本和歌山列事
- 竹村香川小作官補
- 平田高松列事
- 青木奈良列事
- 小田高松列事





小田 高登 陸軍
 中田 高登 陸軍
 吉村 菊三 小中官
 柳山 高登 陸軍
 明石 謙吉 海軍
 香 高登 陸軍
 青山 彦良 小中官
 西尾 重三 小中官
 柴田 高登 陸軍
 村上 高登 陸軍
 藤谷 高登 陸軍
 新田 高登 陸軍
 長田 高登 小中官
 新田 英三 小中官
 藤島 英三 小中官
 野山 高登 陸軍
 高木 信雄 小中官
 平岡 武雄 陸軍
 韓木 高登 陸軍
 三浦 高登 小中官
 安藤 田三 海軍
 山口 高登 陸軍
 山手 高登 陸軍
 山根 英三 小中官
 高木 信雄 小中官
 香木 泰其 陸軍
 藤木 謙雄 山陸軍
 吉賀 勤事 五
 大塚 高登 陸軍
 奥野 田三 海軍
 田島 英三 小中官
 田島 英三 小中官
 津島 智田 海軍
 新藤 鶴 海軍
 宮島 謙三 海軍
 高木 信雄 小中官

高登武衣森神領支圖之員て其出原者願念録録

第一 小作調停事務協議會日程

於高松地方裁判所樓上會議室

第一日 十月一日午前九時開會

- 一、香川縣知事挨拶
- 二、高松地方裁判所長挨拶
- 三、議長選舉

四、提出事項協議 (午後五時半閉會)

第二日 十月二日午前九時開會

- 一、提出事項協議
- 二、議長挨拶
- 三、松本判事謝辭 (午後一時閉會)

第二 佐藤香川縣知事挨拶要旨

今回高松地方裁判所並本縣共同主催ノ下ニ大阪控訴院管内第十三回小作調停事務協議會ヲ開催致シマシタ處、御多忙中ニモ不拘司法省農林省ヨリハ各主務官ノ御臨席ヲ忝フシ關係各府縣ヨリハ調停主任判事並小作官各位ノ御會同ヲ得マシタコトハ主催者トシテ感謝ニ堪エナイ處デアリマス。

申上ゲル迄モナク小作調停ノ事務ハ複雑多岐ナル現代農村經濟社會ニ於テ利害相反スル地主小作人間ノ紛争ニ介在シテ互讓共

榮ノ精神ノ喚起ニ努メ實情ニ即シテ最モ公正適切ナル解決ヲ企圖スルト共ニ其ノ權義ヲ明カニスルノデアリマスカラ常ニ其ノ局ニ當ラレル調停主任判事及小作官ノ苦心ハ想像ニ難クアリマセン。

幸ヒ小作調停法實施以來關係者各位ノ之ガ運用宜敷ヲ得、多年紛争ヲ極メマシタ幾多ノ争議モ遂次解決セラレ農村本來ノ平和ノタメ多大ノ貢獻ヲ致サレツツアルコトハ洵ニ同慶ニ堪エナイト同時ニ各位ノ不斷ノ努力ニ對シマシテ深ク敬意ヲ表スル次第デアリマス。

彌ツテ最近ニ於ケル小作争議ノ動向ヲ觀マスルニ社會情勢ノ變化ニヨリ農民組合運動等表面的團體運動ハ漸ク不活潑トナリ沈靜ノ状態ニアリマスガ打續ク不況ノ爲農村ハ地主小作人共ニ經濟的ニ窮迫シ之ガ爲小作争議ノ件數ハ年々増加ノ傾向ヲ迪ツテキルノデアリマス。然モ是等ノ争議ノ内容ハ單ナル小作料ノ減免ニ關スル争議ニ止マラス小作關係ノ根柢ニ觸レル處ノ土地返還争ガ著シク増加シ争議ハ内面的ニ一層熾烈深刻化シテ來タノデアリマス。從ツテ其ノ解決ハ頗ル困難トナリ延イテハ農業經營ノ圓滑ナル運行ヲ阻害シ農村生活ニ不安ヲ抱カシムル様ナ状態デアリマス。之ガ爲近時各方面ヨリ農村ノ健全ナル發達ヲ計ル上ニ於テ小作問題ノ根本的對策ガ要望サレ適當ナル農地政策ノ樹立等大イニ期待サレテキルノデアリマス。

此ノ秋ニ當リ多年小作争議調停ノ實際問題ニ直面シテ居ラレル調停主任判事並小作官各位ノ御會同ヲ得又司法省農林省ヨリ夫々主務官ノ御臨席御指導ヲ仰ギ各位ノ深甚ナル御經驗ト豊富ナル蘊蓄ヲ披歷サレ同問題ニ對シ充分ナル御討議御研究ニ努メラレルコトハ現下農村問題解決ニ對シ貢獻スル處誠ニ甚大ナリト信ズル次第デアリマス。

以上簡單ナガラ開會ニ當リ所懷ノ一端ヲ述ベテ御挨拶ト致シマス。

第三 大野高松地方裁判所長挨拶要旨

司法記念日トシテ一段ト緊張ヲ要スル此佳キ日ニ當リ香川縣、高松地方裁判所共同主催ノ下ニ第十三回大阪控訴院管内小作調

停事務協議會ヲ開催致シマシタ處農林省ヨリ田邊小作官司法省ヨリ奥野書記官ノ方々ガ御多忙ノ砌リ且ツ御遠路ノトコロヲ御差繰ノ上特ニ御臨席ヲ賜リ親シク御指導ヲ辱ウスルヲ得又管内各府縣、裁判所ヨリ漏ナク小作官小作調停主任判事ノ御來會ヲ得マシタコトハ光榮至極デアリマシテ茲ニ謹テ深甚ノ謝意ヲ表シマス。

唯今佐藤香川縣知事ヨリ洵ニ適切ナル御挨拶ガアリ私ノ申シ上ゲタキコトモ總テ盡サレテ居リマスガ蛇足トシテ一、二所感ヲ申シ上ゲタイト思ヒマス。

小作争議ノ解決歸趨ヲ多大ノ費用ト永キ時日ヲ要スル訴訟ヨリモ小作調停法ニヨリ互讓協調談笑ノ間ニ圓滿ニ解決セントスル法ニ對スル悦服信頼ノ下ニ調停事件ハ一年ト増加ヲ來スノミナラズ最近ノ農村不況ノ影響ニ伴ヒ案件ハ更ニ一層ノ進展ヲ示ス傾向デアリマス殊ニ比年人口ノ遞増耕地面積ノ狹隘金融ノ逼迫其他各般ノ經濟事情ニ伴ヒ全國ニ亘リ土地ノ明渡引上争議ノ激増ヲ示ツツアルコトハ大ニ注目スベキ現象ナルト共ニ經驗豊富ナル調停係官ノ一段ト奮勵善處ヲ要スル秋ナリト信ズルノデアリマス。

本縣ハ曩ニ争議ノ本場ト云ハレ伏石事件、金藏寺事件、土器事件等深刻廣汎ニ亘ル團體的争議ガ多ク幾多ノ刑事々件ヲモ惹起シマシタガ近時ノ争議ハ思想的背景モ少ク一面經濟機構ノ變遷ト共ニ團體的争議ハ漸次個別化シ來リ同時ニ事件數ハ著シキ増加ノ傾向デアリマス此趨勢ハ獨リ本縣ノミナラズ全國的デアリマシテ今ヤ隣保共助互讓的精神ヲ基調トスル調停法ノ使命ハ愈々重大、之ガ躍動活用ハ益々切ナルモノガアラウト存スル次第デアリマス。

此時ニ當リ當面ノ調停事務第一線ニ携ハルル諸彦ガ一堂ニ會シ和カニ此協議會ヲ開カレマスコトハ洵ニ意義深キコトト信ジマス何卒各位ニハ胸襟ヲ披キ隔意ナク御意見御抱負ヲ開陳セラレ各御經驗ヲ御述ベ被下互ニ御批判御檢討ニナリ以テ將來ノ調停事務ノ運用處理ニ多大ノ御貢獻ヲモタラサレンコトヲ御一同ト共ニ念願シテ已マナイ次第デアリマス。

以上簡單ナガラ御挨拶ト致シマス。

第四 協議事項

四

○小作調停取扱處理ニ關スルモノ

- 一、小作調停法第七條ノ取扱方如何
大阪府提出ノ一
- 二、調停受理事件ニシテ裁判所ハ委員並期日指定シタル後其ノ委員ガ任意ニ仲裁ヲナシ或ハ爭議ノ示談成立シタル條件ノ確定ヲ求ムル事件ニ對シ委員會ノ取扱振り如何
和歌山縣提出ノ一
奈良地方裁判所提出ノ一
奈良縣提出ノ一
- 三、調停困難ナル事件ノ處理方法如何
京都地方裁判所提出ノ一
高松地方裁判所提出ノ四
- 四、小作調停調書ノ更正決定ノ方式如何
- 五、調停續行延期等ノ場合調書ヲ作成スルコトノ可否
- 六、小作調停事件ニ付民事訴訟法ニヨル證據調ヲ爲シタル事件アラバ承リ度シ
小作調停事件ハ事件ノ性質上ナルベク簡易ニシテ當事者ニ費用ヲ課セシメザルヲ旨トシ複雑ナルモノハ現場又ハ其ノ附近ニ於テ爲シ鑑定ハ調停委員ヲシテ重要ナル證人ハ利害關係人トシテ訊問シ調書モ經過ヲ簡單ニ記スルニ止ムルヲ常トス然レドモ民事訴訟法ニヨル證據調ヲ爲スヲ要スルコトアルベキヲ以テ若シ右實例アレバ承リタシ
徳島地方裁判所提出ノ二

○調停條項ニ關スルモノ

- 七、調停條項トシテ所有權ノ移轉ニ伴フ小作人ノ將來ノ不安ノ緩和又ハ防止シタル事例並其ノ方策ニ付テ意見ヲ承リタシ
和歌山地方裁判所提出ノ一

- 八、調停事件ニ付永小作權設定契約アリタリト認メラレタル事案アリヤ、アラバ其ノ取扱經過及結果ノ要領ヲ知リタシ
高松地方裁判所提出ノ一
- 九、永小作權又ハ之ニ類似ノ條項ヲ定メラレタル事案アリヤ、アラバ其ノ調停ノ結果如何
高松地方裁判所提出ノ二
- 十、調停條項中「本件ハ貸貸借契約トス」等民法所定ノ字句挿入ノ可否及各所ノ取扱振り承リタシ
高松地方裁判所提出ノ五
京都府提出ノ二
- 十一、調停條項ニヨリ將來ニ亘ル小作料ノ不納ヲ防止スル爲考慮スベキ事項如何
京都府提出ノ二
- 十二、現下ノ農村事情ヨリ觀テ調停條項ノ内容及不履行ニ對スル制裁規定ヲ緩和スルノ要ナキヤ各地ノ取扱振り如何
和歌山縣提出ノ二

○小作料ニ關スルモノ

- 十三、米穀自治管理法ニ依リ地主ノ粃貯藏ヲ必要トスル場合從來支米ヲ以テ納入セル小作料ノ適當ナル粃換算方法如何
滋賀縣提出ノ一
- 十四、強制執行ニヨリ所有權ノ移動セル小作地ノ新舊地主ノ小作料分配方法如何
滋賀縣提出ノ二
- 十五、特殊優良米(旭標識米及ゴム搦米)ヲ小作料トシテ納入セル場合ノ補給米支給ノ標準並ニ其ノ狀況ヲ承リタシ
滋賀縣提出ノ三
- 十六、動力粃摺機ノ普及ニヨリ單位容量ニ對スル重量漸増ノ傾向アリ小作料ノ減免獎勵米ノ増額等如何ニ取扱ハレツツアリヤ
兵庫縣提出ノ一
- 十七、穀物検査施行ニ伴ヒ小作米ノ標準ヲ設定シタル場合小作補給米交付ニ關シ各府縣ノ實情承ハリ度シ
五

十八、各縣ニ於テ米生産検査等級數ニヨリ小作人ニ對シ獎勵、補給、補償等ノ名ノ下ニ小作米一俵又ハ一石ニ付交付シ居レル
振合如何

(イ) 右各等標準米ノ一升ノ重量

(ロ) 右米ヲ交付スルニ至リタル事情

(ハ) 小作人ガ契約小作米ヨリ低キ等級ノモノヲ納付シタル場合ヲモ知リタシ

十九、米穀重量検査制度實施ノ小作關係ニ及ス影響並ニ之ガ對策ニ付意見承リ度シ

二十、小作調停ニ於テ小作料減免ノ基準タル平年作ヲ如何ニ定メ居ラル、ヤ各廳ノ取扱振リ承リタシ

高知縣提出ノ一
高知縣提出ノ二
天津地方裁判所提出

○作離料又ハ甘土料ニ關スルモノ

二十一、最近左ノ場合ニ於ケル作離料ノ標準額ニ付各廳ノ取扱實例ヲ承リタシ

(イ) 小作料延滞ニ因ル小作地明渡ノ請求アリタルトキ

(ロ) 地主ヨリ常習的ニ作離料ノ交付ヲ目的トシテ地主ニ無斷小作人ヨリ賃借權ノ讓渡ヲ受ケ不法占據ヲ爲ス者ニ對シ
小作地明渡ノ請求ヲ爲シタルトキ

(ハ) 地主ガ負債整理ノ爲轉賣ヲ目的トシ小作地明渡請求ヲ爲シタルトキ

(ニ) 自作ヲ目的トシテ小作地明渡ノ請求アリタルトキ

(ホ) 小作地方市街地宅地トシテ利用スルコトヲ目的トシテ明渡ノ請求アリタルトキ

(ハ) 小作地方工場其ノ他ノ工業上ノ企業目的トシテ明渡ノ要求アリタルトキ

神戸地方裁判所提出ノ一

二十二、斗代卸ニ關シ小作調停申立アリタル場合ソノ調停方針承リタシ

説明 甘土料ヲ支拂ヒ得ザル小作人ガ反當四斗位ヲソノ利子米トシテ地主ニ支拂フモノナリ

香川縣提出ノ一

○小作關係ノ訴訟又ハ執行ニ關スルモノ

二十三、地方裁判所ガ小作調停事件トシテ受理調停中ノ物件ナルコトヲ知ラズシテ區裁判所ガ該物件ニ對シ假差押ノ決定ヲ爲
シタル後被申請人ヨリ小作調停繫屬中ノ證明書ヲ提出シタル場合又ハ執行異議ノ訴訟ニ出タル場合執行裁判所ノ小作調停
法第九條ニヨリ處置如何

附 小作調停法第九條ニ關スル大審院判例ヲ大審院判例集ニ登載セシムル様司法省ニ於テ措置セラレタシ

德島縣提出ノ一

二十四、小作調停法第三十六條ニヨリ委員會ニ於テ調停條項ヲ定メ其ノ正本ヲ送達セシ場合地主側ヨリ異議ノ申立アリ不調ト
ナリシ事件ノ訴訟ニ移リシ場合小作人極貧ニシテ應訴力ナキタメ小作人ヨリ町村長ノ證明ヲ付シ訴訟救助ニヨリ裁判所ニ
救助申請ヲナシタル時ハ裁判所ハ努メテ之ヲ容ル、コト如何

二十五、小作調停申立ニヨリ上訴期間ヲ中斷シ得ルヤ否ヤ

二十六、調停條項不履行ニ基キ強制執行ヲ爲サントスルトキソノ小作權方第三者ニ讓渡セラレ居ル場合ノ處理方針承リタシ

二十七、一回ニテモ小作米ノ支拂ヲ怠リタルトキハ即時ニ土地明渡ヲ爲ス旨又ハ殘額ニ付即時ニ履行期到來スル旨ノ調停條項
アル場合ニ於ケル執行文ノ附與ニ付テハ民事訴訟法第五百十八條第二項ニ依リ債權者ヲシテ證明セシムル取扱振ナリヤ實
際ノ取扱振リ承リタシ

香川縣提出ノ四

德島縣提出ノ三

德島縣提出ノ四

香川縣提出ノ四

昭和七年七月民事局長回答参照
二十八、調停條項ノ執行力ノ存續期間如何

和歌山地方裁判所提出ノ二
大阪府提出ノ二

○小作爭議防止並調停法ノ活用ニ關スルモノ

- 二十九、時局及逐年小作事件ノ増加ニ鑑ミ我小作調停法ヲシテ一層活用セシムベキ方策如何
大阪地方裁判所提出ノ一
- 三十、小作爭議未發生地方ニ於ケル不良小作條件ノ改善方策如何
京都府提出ノ一
- 三十一、地主小作協調組合設置獎勵上注意スベキ事項承リ度シ
兵庫縣提出ノ二
- 三十二、小作爭議未然防止ノ狀況如何
和歌山縣提出ノ三
- 三十三、協調組合ニテ團體協約的ニ小作條件ヲ決定セル後一部當事者ヨリ之ニ反スル小作調停ノ申立アリタル場合之ヲ如何ニ處理スルヤ
香川縣提出ノ三

○調停委員ニ關スルモノ

- 三十四、小作調停委員協議會開催ノ可否
本年五月縣下ノ小作調停委員協議會ヲ開催セリ將來各郡毎ニ研究會ヲ開催セントスソノ可否ニ付他府縣ノ事情承リタシ
香川縣提出ノ二
- 三十五、小作調停委員ノ法外活動狀況如何
奈良地方裁判所提出ノ二
- 三十六、調停委員ノ功績ノ著例及其選任期間ヲ承リタシ
高松地方裁判所提出ノ二

○小作法案ニ關スルモノ

- 三十七、所轄省ニ小作ニ關スル單行法ヲナルベク早ク制定實施スル様建議シテハ如何
徳島地方裁判所提出ノ三
- 三十八、小作法制定ニ關スル本省ノ方針如何
徳島縣提出ノ五

○其他

- 三十九、全國控訴院管内小作調停事務協議會ニ於テ今日迄協議セラレタル會議録ヲ農林省ニ於テ重複セザル様蒐集シ司法省ヨリ全國地方、區裁判所ニ(地方裁判所ニハ二部)送付シ小作調停判事ノ精讀ニヨリ小作調停事件處理上ノ參考ニ資セシムルコト如何
徳島縣提出ノ二
- 四十、輓近ニ於ケル地主、小作人ノ團體運動ノ狀勢承リタシ
高松地方裁判所提出ノ六
- 四十一、次回開催地ノ件
香川縣提出ノ五

第五 協議ノ概要

香川縣山尾小作官 慣例ニ依リ協議ニ先チ議長ヲ推薦シ度イト思ヒマス。
 徳島縣佐々木小作官 議長ノ推薦ハ主催地ニ於テ可然御取計ヲ願マス。
 香川縣山尾小作官 ソレデハ知事ハ御差支ガアルソウデスカラ今明兩日共大野裁判所長ニ議長ヲ御願致シマス。
 大野高松地方裁判所長議長席ニ着タ。
 議長 御推薦ニ依リ不肖議長ノ席ヲ汚シマス。未熟デスカラ何卒宜敷御願致シマス。就テハ御提出ノ問題ガ澤山アリマスノデ

時間ノ都合上御手許ニ配付シテ置キマシタ印刷物ノ次第ニ從ヒ先ヅ係員ニ問題ヲ朗讀サセマスカラ其後ニ出題者ノ説明次第各位ノ意見開陳ト云フ順序ニテ議事ヲ進行致シマス。デハ之ヨリ議案ニ入りマス。

(議 事)

○小作調停取扱處理ニ關スルモノ

問題 一、小作調停法第七條ノ取扱方如何(大阪府提出ノ一)

香川縣山尾小作官 提出者ノ都合ニヨリ一問ハ後廻ニシテ二問カラ始メテ裁キ度イ。

議長 ソレデハ第一問ハ留保シ第二問ニ移リマス。

問題 二、調停受理事件ニシテ裁判所ハ委員並期日指定シタル後其委員ガ任意ニ仲裁ヲナシ或ハ爭議ノ示談成立シタル條件

ノ確定ヲ求ムル事件ニ對シ委員會ノ取扱如何(和歌山縣提出ノ一)

和歌山縣高木小作官 敢テ説明スル迄モナク出題ノ内容ハ明ニシテ即チ前段ハ調停受理事件ニ付裁判所ガ委員並期日ヲ指定シタル後其委員ニ於テ委員會ノ意ヲ受クルコトナク勝手ニ仲裁ヲ試ミ下方ノ示談ヲ成立セシメタ場合、又後段ハ調停申立前豫メ村有志等ノ斡旋ニ依リ爭議ガ示談解決シ其示談條件ノ確定ヲ求ムル爲調停申立アリタル場合デアリマシテ此様な場合如何ニ取扱ツテ居ラル、カヲ伺度イ。私ノ方デハ申立ヲ受理シタ事件ニ付委員ガ何等ノ打合モシナイデ勝手ニ仲裁ヲ試ミルコトハ禁ジテ居ル。然シ問題ハ示談ノ内容ガ相當ナモノデアアル場合委員會トシテ取扱ツテ宜イカ怎ウカ疑問ガアルノデス。

奈良地 青木判事 私ノ方デハ斯ウ云フ場合事件ヲ受理シ一應示談ノ内容ヲ検討シテ適當ト思ヘバ調書ヲ作ツテ居ル。

高松地 中口判事 高松ニモ此様な事案ハ時々アルガ其場合可成示談條件ヲ尊重シ委員會ニ於テ適當ト認メタモノハ其儘調書

ヲ作り然ラザルモノハ委員會ニ於テ適當ニ條件ヲ修正シテ調停ノ公正ヲ期シテ居ル。

大阪地 月山判事 大阪ニ於テハ後段ノ如キ場合ハ委員會ヲ開キ成立セル示談條件ヲ吟味シタル上適當ナルモノハ其儘調書ヲ作り尙不完全ニシテ修正ヲ要スルモノハ委員會ニ於テ更ニ調停ヲ試ミルコト、シテ居ルガ前段ノ如キ各個委員ノ勝手ナ仲裁ハ之ヲ認メナイ。

滋賀縣廣部小作官 私ノ方デ一昨年斯様な事案ガアツタ、或ル一郡全部ノ小作人カラ地主ニ對シ小作料永久減ト云フ小作料改定ノ調停申立ガアリ一回委員會ヲ開イテ續行シ其間委員ガ熱心ニ二日モ三日モ徹夜シテヤツタ結果示談成立シ當事者双方示談ノ契約書ニ調印迄出來テ居ツタガ委員ガ小作官ノ意見ヲ聞カズ勝手ニヤツタ爲其條件ニ至ツテハ甚ダ杜撰且ツ不完全ナモノデアツタノデ更ニ又一晩徹夜シテ我々ノ考ヘ通ニ之ヲ遣リ直シ漸ク調停ヲ成立セシメタ。

斯様ニ私等ノ取扱トシテハ調停申立事件ニ付委員ガ勝手ニ仲裁スルコトハ認メナイ方針ヲ採ツテ居ル。

京都地 村上判事 前段ノ場合ニ付調停事件トシテ裁判所ニ繫屬シタ以上ハ裁判所ニ於ケル委員會ノ手デヤルベキ委員ニハソレ以外勝手ニ手ヲ觸レサセナイコトニシテ居ル、從ツテ京都ニ於テハ今日迄此問題ガ起ツタコトガナイ。然シ若シ斯様な問題ガ起ツタ場合ニハ調停ヲ拒否スルヨリモ寧ロ進ンデ其條件ノ内容ヲ検討シテ修正スベキ點ハ修正シ以テ公正ナル條件ノ調停ヲ成立セシムベキモノト考ヘル。後段ノ場合ハ申立ヲ取下サセテ居ル。

和歌山縣高木小作官 此通り調停ガ出來タカラ調書ヲ作ツテ貰度イト云ツテ調停ノ申立ガアツタ様ナ場合ハ如何。

徳島地 黒瀬判事 私ノ方デハ前段ノ場合ノ例ハナイ、後段ノ場合ハ合意申立ト認メ之ヲ尊重シテ調書ヲ作ツテ居ル。然シ他ノ事件ト均衡ヲ失スル様ナ場合ハ勿論條項ヲ更正スル。

奈良縣田中小作官補 本問ハ三十五問トモ關係ガアルカラ此際一緒ニ協議ヲ願度イ、斯様な場合ハ寧ロ此種ノ委員ヲ活用シテ調停ヲシテヤルコトハ結局爭議ノ發生ヲ未然ニ防止スル上ニ於テ餘程效果ガアルノデハナイカト思フ、詰リ委員ノ法外活動ヲ促シテ宜イカ怎ウカノ意見ヲ伺度イ。

議長 問題ノ複雑ヲ避クル爲本問ノミニ付議事ヲ進メマス。

兵庫縣窪田小作官 私ノ方デハ後段ノ様ナ場合ハ現在餘リナイガ昭和三、四年頃ハ神戸ヤ姫路邊リニアツタ。其地方ニ於テハ有志ガ自發的ニ調停法ニ依ラナイデ解決ヲ付ケテ居タ様デス。然シ當事者トシテハ斯様ニスルヨリカ裁判所ノ方デヤルノガ氣持ガ違フカラ現在ハ裁判所デヤツテ居ル。ソレカラ一度調停ガ出來タモノヲ期限ノ到來ニヨリ更新スル場合ハ大體當事者間ニ於テ協議ガ調停ヲ居リ裁判所デハ形式的ニ調書ヲ作ツテ居ル様デアル。

前段ノ方ハソレニ依リ調停ガ出來ル見込ガアレバ委員ノ法外活動モヤラセテ宜イト思フガ委員會ヲ一度モ開カナイ前ニ委員ガ仲裁スルコトハ餘リ實例ガナイ。

奥野司法書記官 委員ガ委員會ヲ離レテ勝手ニヤルコトハ望マシクナイト思フ、即チ事件ガ裁判所ニ繫屬シテ居ルノニ委員ガ法外デ調停ヲヤルコトハ勿論繫屬シテ居ナイ場合デモ公的ノ地位ヲ持ツテ居ル人ガ法外デヤルコトハ面白クナイ。之ハ他日其事件ノ委員ニ選バレル場合何カト弊害ガアル。要スルニ調停ハ委員會ガ主宰スルコトニ意義ガアルノデ委員ガ委員會ヲ離レテ勝手ニ所謂私立調停ヲ試ルコトハイケナイト思フ。デスカラ主任判事ノ方々ニ委員ヲシテ勝手ニヤラナイ様御指導ヲ願度イ。

兵庫縣窪田小作官 一、二回委員會ヲ開ケバ大體ノ方針ガ判ルノデスカラ其方針ニ基キ次回ノ期日迄ニ委員ヲシテ外廓ヨリ相當ノ活動ヲサセテ置クコトハ差支ナイト思フガ如何。

奥野司法書記官 委員會ニ於テ方針ヲ決定シタ上委員ガ委員會ノ委任ニ依リ其方針ニ基キ調停成立ヲ助ケル爲ニ活動スルコトハ勿論差支ナイガ調停委員ノ資格ヲ以テ勝手ニ法外調停ヲ爲スコトハ面白クナイト云フ趣旨デアル。

奈良縣田中小作官補 國家の見地カラ考ヘ農村ノ紛議ヲ防止スルコトガ小作調停法ノ目的デアル以上兵庫縣小作官ノ意見ノ如ク調停委員ノ法外活動ヲ認メテ寧ロ之ヲ獎勵シ一方個々ノ條項ニ付法律的ニ見テ相當ナリヤ否ハ事件受理後調停調書ヲ作ル場合裁判所側ニ於テ可然處理セラレ度イト思フ。

奈良縣青山小作官 各地ノ爭議ニ付テハ裁判所ヘ持テ出ス以前ニ於テ既ニ地方有志者ガ非常ニ活動シテ之ガ爭議ノ解決防止ニ努力セラレテ居ル實情デアルカラ寧ロ縣小作官ナリヲ更ニ督勵シテ其活動ヲ促セバ一層效果ガアル様ニ思フ。

議長 本問多數ノ御意見ハ要スルニ前段ノ場合委員ガ任意ニ私設委員會見タ様ナモノヲ作ツテ調停ヲスルコトハ全然イケナイ、又委員會ノ意思ヲ受ケズニヤルコトモ面白クナイ。後段ノ場合ハ既ニ成立ヲ見タル仲裁ノ條項ヲ利用シ得ル所ガアレバ利用スルト云フ程度ニ御承知ヲ願ヒ第三問ニ移リマス。

問題 三、調停困難ナル事件ノ處理方法如何(奈良地方裁判所、奈良縣提出ノ一)

奈良地 青木判事 調停困難ナル事案ニ對シテハドノ程度ニ打切ツテ居ルカ或ハ又勸解ニ付シテ居ルカ其他御經驗談ヲ承リ度イ。

徳島縣佐々木小作官 如何ニ熱誠努力スルモ當事者ノ一方ガ偏狹デ飽迄モ自己ノ主張ヲ固執シテ互ニ折合ハナイト云フ様ナ事件ニハ屢々ブツツカル、徳島ニ於テモ斯様ナ事例トシテ一年八ヶ月ニ亘リ十八回モ調停ヲ重ネタモノヤ又昭和八年ノ事件ヲ今ニ持越シテ居ルモノガアル。之等ノ多クハ委員會ニ於テ決定シタ公正ナル調停案ニ對シ當事者ノ一方ガ怎ウシテモ折合ハナイ爲デアアル故私共ノ取扱トシテハ地主ガ應ジナイ場合ハ小作人側ニ小作人ノ相當ト認ムル小作料ヲ供託セシメテ置キ地主ノ理解アル迄調停ヲ繼續スル、ソレカラ小作人ガ應ジナイ場合モ矢張り可及的理解ノ行ク迄調停ヲ續ケ而モ尙到底成立ノ見込ガナクナツタ時一應事件ヲ取下サセテ其經過ヲ見ルコトニスル、大抵或ル期間經過スレバ小作人ノ方デ假差押假處分等ヲ受ケ結局困ツテ再ビ調停ヲ申立テ、來ルコトニナリ此場合ニハ小作人ヨリ我々ニ白紙一任サセ調停成立ヲ見ルノデアアル。之ヲ要スルニ當局者トシテハ慎重ニ根氣ヨク粘リト親切ヲ以テ努力スルト云フコトガ調停ヲ成立セシムル秘訣ジヤナイカト思フ。當大阪控訴院管内デハ左様ナコトハナイト思フカ本省ノ小作官會議ニ於テ各地ノ小作官カラ判事ハ事件ノ處理ヲ急ギ過ギル傾向ガアルトノ聲ヲ聞キ先日モ小作官會議ノ席上司法省ノ方ニ司法省トシテ斯様ナ方針デ居ラル、カト云フコトヲ御尋ネシタ處左様ナコトハナイトノ説明ガアツタカラ事件ヲ急グノハ個々ノ判事ノ意見ニ依ルモノナルコトガ判明シタ。左様

ナ次第で判事方ニモ此粘リヲ希望スル。

京都地 村上判事 只今裁判所側が事件ノ處理ヲ急ぎ過ギルトノ御話デアリマスガ勿論小作調停ハ氣長クヤラネバナラヌコトハ知ツテ居リマス。然シ小作官ノ方ニモ次ノ様ナコトヲ念頭ニ置イテ貰度イ。ト云フノハ調停方行詰ルト半年デモ一年デモ放ツテ置クト云フ人モアルガ私ハ唯ニ時ノ經過ヲ待ツ即チ放ツテ置クト云フコトハ判事側トシテハ出来ナイ少クトモ月一回位ハ期日ヲ開キ續行スル場合ハ次回ハ何日ト云フ風ニ何回デモ委員會ヲ開キ善處シテ行クコトニシテ居ルカ之ヲ以テ處理ヲ急グト解釋シテ貰ツテハ困ル。要スルニ私共ハ根氣良クヤル、ソシテ無理ヲシナイ押付ケナイト云フコトヲ建前トシテ調停ニ臨ンデ居ル。

徳島地 黒瀬判事 實例ヲ申上ゲル。非常ニ地主方頑固デドウシテモ調停ニ應ゼズ判決ニ依ツテ解決ヲ付ケルト云フ様ナ難シイ事件ガ私ノ着任當時訴訟トシテ一、二審ニ繫屬シテ居リ之ニ對シ小作人カラ調停ヲ申立タモノガ十件程アツタ其當時私ハ之等ノ地主小作人ニ會ヒ話ヲ聞イテ見ルト或ル地主ノ如キハ五六十町歩モ不動産ヲ所有シ相當教養モアリ物ノ判ラヌ地主デハナイケレドモ小作人ニハ其當時農民組合ノ後援ガアツタ爲其地主ガ民法ヲ楯ニトリ飽迄訴訟ニ依ルコトヲ主張シテ調停ニ應ゼズ小作人ノ組合ヲ壞スノダト云フ様ナコトヲ云フ。其處デ私ハ其地主ニ對シ中々民法ノ規定通りニハ行クモノデハナイ。今日ノ社會狀勢ト云フモノヲ宜ク認識シテ掛ラナケレバナナイト云フ様ナコトヲ説イテ聞カセ、又小作人ノ方ニハ一人々々ヲ呼ンデ利害關係ヲ説伏セ斯様ニシテ殆ド解決ヲ見今日其村デハ双方協調シテ良クヤツテ居ル。之ヲ要スルニ小作官ナリ主任判事ナリガ誠意ヲ以テ親切ニ根氣良ク努力スレバ如何ニ難件デモ遂ニハ調停ハ出来ルモノト信ズル。

次ニ期日ノ點デアアルガ相當難件ナモノハソウ度々期日ヲ指定セズ二ヶ月デモ三ヶ月デモ場合ニ依ツテハ五ヶ月モ指定セヌコトガアル。ソレハ其間ニ双方ノ考慮ヲ促シ熱ノ冷メルノヲ待チ詰リ反省ノ餘地ヲ與ヘルト云フ意味合カラデアツテ此様ニシテ解決シタ例モアル。

議長 各位ノ御意見ハ要スルニ主任判事ト小作官ガ相協力シテ熱誠懇切ニ事件ノ處理ニ當リ時ニハ其解決ニ一年モ二年モ掛ル

コトガアツテモ根氣良ク努力善處スルト云フコトニ歸着スル様デス。本問ハ此程度ニ打切り第四問ニ移リマス。

問題 四、小作調停調書ノ更正決定ノ方式如何(京都地方裁判所提出ノ一)

京都地 村上判事 之ハ團體爭議ノ場合ニヨクアル問題デ調停調書記載ノ反別トカ地番トカニ間違ガアツタ場合共調書ノ更正ガ出来ルカ怎ウカ、出来ルトセバ如何ナル形式ニ依ルカト云フノデス。大阪地方裁判所ニ於テハ此様ナ事件ガアツテ大審院迄行ツタガ結局主任判事一人デ更正決定ガ出来ルト云フコトニナツタト聞イテ居ル。本省ノ御意見ヲ承り度イ。

高松地 山下判事 委員會ヲ開イタモノニ付テハ矢張り又委員會ヲ開イテ更正ヲ爲シ之ニ對シ裁判所ノ認可決定ヲ受ケル、聞カナイモノハ主任判事ニ於テ更正決定ヲスルノガ宜イト思フガ高松ニハ斯ル先例ハナイ。實例トシテハ調停申立ニ因リ片付ケテ居ル。

大阪地 月山判事 只今村上判事カラ御話ガアツタ大阪ノ事例ヲ申上ル。ソレハ大審院昭和十年(7)第三七二號事件デスガ最初調停ノ申立ニハ太田柳トアリ此者ガ調停進行中ニ死亡シタト云フノデ其子ノ某ガ之ヲ承繼シテ調停ニ出テ來タソシテ調停方濟ンダノデアル。處ガ其後戶籍謄本ヲ提出シテ柳ハ生存シテ居ル。左レバ死ンダ者トシテ出來タ調書ヲ更正シテ吳レト云フ申立ガアツタノデス。其處デ私ノ方トシテハ實際調停ニ出テ來タ人ガ「柳」ナリヤ將又其承繼人ノ某ナリヤヲ確メルコトハ困難デスカラ更正決定スベカラズト思ツタガ事件ハ地方裁判所ノ管轄ニ屬スルノデ更正スルトセバ認可決定ヲシテ合議裁判所ニ於テ爲スベキカ或ハ主任判事ヲ更正シ更ニ又認可決定ヲ受クベキモノカニ議論ガ分レタノデアル。結局和解調書ガ受命判事ニ依ツテ爲サレル場合ト同様ニ單獨判事デヤツタラ宜カラウト云フコトニナリ其更正決定ノ申請ヲ單獨判事ノ決定ヲ以テ却下シタ。ソレガ抗告シテ遂ニ大審院迄行キ其ノ抗告理由ハ合議裁判所デ處理スベキモノヲ單獨判事ガヤツタノガイケナイト云フニアリマシタガ抗告審ニ於テモ大審院ニ於テモ其主張ガ通ラズ其決定ニハ何等違法ハナイトシテ抗告理由ハ容レラレナカツタノデアル。

和歌山地 松本判事 私ノ考トシテハ重大ナル誤謬トカ書損等アル調書ノ訂正ニ付テハ委員會ヲ開イタモノハ其方デヤツテ更

ニ認可決定ヲ受ケルノガ宜イト思フ。此點ニ付テハ昭和八年ニ開カレタ宮城札幌兩控訴院管内ノ小作調停事務協議會席上臨席サレテ居タ時ノ司法書記官佐々木良一氏ガ今申シタ様ニ云ハレ更ニ初メノ委員ニ缺員ガアルトキハ他ノ委員ヲ補充スベキデアルト云ツテ居ラル、カ委員ガ最初ノ時ノト異ル様ナ場合ハ高松ノ實例ノ如ク再調停ノ形式ヲ採ルノガ宜イト思フ。次ニ最初カラ委員會ヲ開カナイモノハ主任判事ガ更正決定ヲ爲セバ宜イ譯デス。

大阪地 月山判事 實例トシテ金錢債務調停ノ方デハ一應當事者ニ訊シタ上其儘判事ノミデ更正決定ヲシテ居ル。然シ一項目ヲ加ヘルトカ又複雑ナ場合ハヤラナイ。小作調停ノ方ノ更正決定ニ付テハ未ダ實例ナキモ私トシテハ金錢債務調停ノ場合ト同様ニ取扱ツテ宜イト思フ。

和歌山地 松本判事 一言補充シテ置クカ一般ニ更正決定ニ對シテハ非訟事件手續法ニ依リ抗告ガ出來ルカ認可決定ニ對シテハ小作調停法ニ依リ不服申立ヲ許サレテ居ナイカラ調書ノ更正決定ニ付テモ之ガ認可決定アリタルトキハ抗告出來ナイモノト考ヘル。

奥野司法書記官 最初カラ委員會ヲ開カズシテ爲サレタル調停ノ場合ハ論外ダガ委員會ヲ開イテ居ル場合ハ矢張り又委員會ヲ開イテ更正ヲ爲シ之ニ對シ更ニ裁判所ノ認可ヲ得テ置ク方ガ宜イト思フ。其點ニ付テハ別ニ判例ハナイ様デス。尤モ一旦調停ガ成立シタ以上最早其委員會ハ存在シナイト云フ議論モ爲シ得ル様デスガ殘務整理ノ爲尙委員會ガ存在スルト云フ風ナ見方モ出來ヌコトハナイト思フ。然シ再調停ノ方法ヲ採リ得ル場合ニハ此方法ニ依ルコトガ最モ無難デアラウト思フ。而シテ右ノ更正決定ニ付裁判所ノ認可ヲ受ケテ置ケバ之ニ對シテハ抗告ノ途ハナイト解スル。

和歌山地 松本判事 只今ノ御説明ニ依ルト季員會デアルノハ事實上ノ更正デ更正決定デハナイノデスカ。
奥野司法書記官 更正ノ決議デアリマス。

大阪地 月山判事 前ニ開イタ時ノ委員ノ一人ガ死亡シタ場合ハ如何。
奥野司法書記官 其場合ハ新シイ委員ヲ補充シテヤレバ宜イ。

議長 書記官ノ御説明ニテ十分諒解ト思ヒマスカラ第五問ニ移リマス。

問題 五、調停續行延期等ノ場合調書ヲ作成スルコトノ可否(高松地方法裁判所提出ノ四)

高松地 中口判事 出題ノ趣旨ハ調停期日ニ於テ當事者ノ一方ガ不出頭ノ爲相手方ヨリ其再呼出ヲ求メタ場合又ハ双方出頭シテモ何カノ都合デ話ガ調停ノ内容ニ入ラナカツタト云フ様ナ場合ニ於テモ必ズ調書ヲ作成シナケレバナラヌカ怎ウカラ同度イ。

當廳デハ如何ナル場合ニテ調書ヲ作成シテ居ル。所ニ依ルト單純ニ續行トカ延期ノ場合ハ調書ヲ作ラナイコトヲ聞イテ居ル方如何。

大阪地 月山判事 私ノ方デハ小作調停ノ方ハ場合ニ依リ長クナツタリ又複雑ナモノモアルノデ作ル方ガ宜イト思ヒ一々調書ヲ作ツテ居ルガ其他ノ調停ニ付テハ斯様ナ場合一々調書ヲ作成シナイデ記録表紙ノ裏ニ期日ノ經過表ヲ付シ調書ニ代ヘテ居ル。

神戸地 花淵判事 大阪ト同様デス。

京都地 村上判事 私ノ方デハ斯様ナ場合小作調停ノミナラズアラユル調停ニ付調書ハ作成シテ居ラナイ。澤山ナ事件デアルカラ判事モ書記モ其全部ニ付終始立會フコトハ至難デアリ而モ判事ノ方ハ委員カラ其事件ノ經過ヲ聞イテ判ルガ書記ノ方ハ何ニモ判ラナイ爲自然調書ガ千變一律ノモノニナル。斯様ナ調書ハ毫モ必要ガナイノミナラズ小作調停法第二十四條ニ「調停ニ付テハ裁判所書記調書ヲ作ルコトヲ要ス」トアル趣旨モ調停成立セル場合ヲ意味スルモノニシテ然ラザル場合ハ含マザルモノト解スベク從ツテ本問ノ如キ場合ニハ調書ヲ作成シナクテモ違法デナイト考ヘル。他廳ノ様ニ小作調停文々ニ調書ヲ作り金錢債務調停ノ様ナモノハ調書ヲ作ラナイト云フノハ如何ナル譯カ私ニハ判ラナイ。

和歌山地 松本判事 私ノ方ハ大阪ト同様デス。

高知地 龜谷判事 民事訴訟ヤ非訟事件トハ其趣ヲ異ニスルシ又立法ノ趣旨カラ云ツテモ本問ノ様ナ場合調書作成ノ必要ハナ

イト思フ。私ノ方デハ先年調停ノ經過ヲ詳細トツテ居タ調書ヲ證據トシテ訴訟ノ資料ニ供サレ困ツタコトガアル。
 香川縣山尾小作官 本問ノ如キ場合ニ於ケル調書作成ノ可否ニ付テハ司法省ノ方カラ御話ガアラウト思フガ、私ノ前任地福岡ニ於ケル實例トシテ小作料減免事件ニ付小作人ハ五割減ヲ要求シ地主ハ二割減額ヲ主張シ數回調停ヲ試ミタ結果小作人ニ於テ三割位迄讓歩シタルモ地主ガ中々強硬ナル爲地主ニハ此事ヲ知ラセズ續行シ調書ニハ其經過ヲ書イテ置イタ處次ノ期日迄ニ地主ヨリ記録閱覽ヲ求メ小作人ニ於テ讓歩シテ居ル事實ガ地主ニ判明シソレガ爲却テ益地主ガ硬化シ調停ガ六ヶ敷クナツテ困ツタコトガアル。然シ結局其調停ハ三割減ト云フコトデ成立ヲ見タノデアルガ、調停ノ經過ヲ調書ニ記載シタ爲困却シタ事例トシテ參考迄ニ申上ケル。

奈良地 青木判事 私ノ方デハ現在作成シテ居ルガ今後ハ作ラナイコトニシ様ト思フ。實益ガナイカラ。

奥野司法書記官 調停ノ經過ニ付一々調書ヲ作ラナクテモ違法デハナイカ出來ルナラ作ル方ガ宜イト思フ。證據ノ申立等アリタル場合必要ナ事項ガ記録ニナイ時ハ困ルシ殊ニ當事者ノ不出頭ノ場合過料ノ制裁モアル故調書ヲ以テ之ヲ明確ニスル必要ガアル。

大阪地 月山判事 一言補充シテ置ク。金錢債務調停其他ニ付テハ責任アル答ハ出來ナイガ小作調停ノ方ハ院長カラノ話モアリ作ラナイノハ單ニ期日ニ關スルモノ丈ケデアル。

議長 皆様ノ御意見モ大體判リマシタカラ第六問ニ移リマス。

問題 六、小作調停事件ニ付民事訴訟法ニ依ル證據調ヲ爲シタル事件アラバ承リ度シ。

小作調停事件ハ事件ノ性質上ナルベク簡易ニシテ當事者ニ費用ヲ課セシメザルヲ旨トシ複雑ナルモノハ現場又ハ其附近ニ於テ爲シ鑑定ハ調停委員ヲシテ重要ナル證人ハ利害關係人トシテ訊問シ調書モ經過ヲ簡單ニ記スルニ止ムルヲ常トス然レドモ民事訴訟法ニヨル證據調ヲ爲スヲ要スルコトアルベキヲ以テ若シ右實例アレバ承リタシ。(德島地方裁判所提出ノ二)

德島地 黒瀬判事 調停ノ爲ノ證據調ニ付テハ民訴ノ規定ヲ準用スルカ最近或ル調停主任判事カ證人調ノ決定ヲ爲シ其費用納付命令ガアツタノデ小作人ガ費用ヲ出スノニ困リ斯様ナコトガアルノカト云ツテ喫驚シテ聞キニ來タコトガアル。他廳ニ於テ調停ノ際證據調ヲシタ事例アレバ承リ度シ。

高松地 山下判事 當廳デハ證人調ヲシタモノガ一件、小作地明渡ニ際シ家屋ノ鑑定ヲサシタモノガ三件アル。此證人調ヲシタ事案ハ本縣デ會テ農民組合ノ最モ盛ンデアツタ綾歌郡坂本村ニ起ツタ昭和九年ノ早魃ニ關連シタ小作料減免問題デ實際ノ被害程度ヲ明確ニスル爲地主側カラ三名、小作人側カラ三名、中立ノモノ三名ヲ證人トシテ取調ベタコトガアル。

香川縣内海小作官補 之ニ付一言補足スル。此坂本村ニ於ケル小作料減免事件ハ刈取後ノ翌年十月ニ至リ小作人側ノ中立ニ係リ我々調停官側ニハ實際ノ被害状態ガ判明シナイシ地主ハ被害ナシト云ヒ小作人ハ被害ノ爲小作料三割減ヲ主張シテ讓ラナイ而モ其解決ノ結果ハ此地方ニ廣範圍ニ亙リ餘程重大ナル影響ヲ及ボス狀勢ダツタノデ證人調ヲ手際宜クヤラネバナラヌ必要上裁判所ニ呼出頭シタ當事者ガ未ダ歸村セザル裡ニ係官ガ先廻リシテ急速現地ニ至リ證人ヲ村役場ニ呼出テ取調ヲ至サレマシタ。此證人ノ中ニハ生産検査員ヤ農會技術員モ加ツテ居リマシタ。而シテ此證人調ノ結果ニ依リ其事件ハ即夜解決ヲ見マシタ。證人ノ日當ハ請求シナカツタ爲支給サレマセマデシタ。

家屋鑑定ノ件ハ明渡スベキ地上ニ存在スル小作人ノ家屋ノ價格ニ付縣技術員ヲシテ鑑定サセラレタノデアアル。

香川縣山尾小作官 前任地福岡デモ干拓地ノ等級ヤ小作料ヲ決メル爲農事試驗場ノ技師ニ其土地ヲ見セテ鑑定サセラレタコトガアル之ハ正式ノ鑑定人トシテデハナク勸解者トシテ其費用モ裁判所カラ出シタノデス。

議長 午前ノ協議ハ此程度ニ止メ晝食ノ爲休憩シ午後一時再開致シマス。

議長 午前ニ引續キ第七問ヨリ御協議ヲ願ヒマス。

○調停條項ニ關スルモノ

問題 七、調停條項トシテ所有權ノ移轉ニ伴フ小作人ノ將來ノ不安ノ緩和又ハ防止シタル事例並其方策ニ付テ意見ヲ承リタ

シ。(和歌山地方裁判所提出ノ一)

和歌山地 松本判事 本問ハ現今ノ小作契約ハ普通民法上ノ賃貸借契約デアルカラ其登記ガナケレバ所有權者及第三者ニ對抗シ得ナイ。然ルニ實際上ハ之ガ登記ヲ爲シタルモノハ少ナイ。其結果小作人ハ所有權ノ移轉ニ伴ヒ將來不安ヲ感ズルヨリ之ガ不安ノ緩和ヲ防止シタル實例ガアレバ承り度イ。

神戸地 花淵判事 神戸ニ於テハ地主ガ土地ヲ賣却セントスル時ハ小作人ニ賣買價格ヲ示シ小作人ニ於テ其價格デ買取希望ヲ爲ス場合ハ小作人ニ賣渡シ若シ小作人ニ於テ買取ノ希望ナキトキハ地主ハ明渡ヲ催告シ小作人ニ於テ完全ニ明渡ヲ爲シタル場合ハ反當金三十圓又ハ一ヶ年分ノ小作料ヲ作離料トシテ與ヘタ事例ガアル。

徳島縣佐々木小作官 小作人ノ耕作反別、家族數ヲ取調べ可成耕作繼續ノ調停ヲ爲シ是非明渡ヲ要スルモノハ充分ナル明渡ノ猶豫期間ヲ與ヘ明渡ノ上ハ一ヶ年分ノ作離料ヲ與フルカ又ハ從來ノ滯納小作料ヲ全免スル等小作人ニ有利ナル條件ヲ付シテ解決シテ居ル。

議長 本問ハ此程度ニテ御諒解ヲ願ヒ次ニ第八問及第九問ヲ併合シテ協議ニ入りマス。

問題 八、調停事件ニ付永小作權設定契約アリタリト認メラレタル事案アリヤ、アラバ其取扱經過及結果ノ要領ヲ知りタシ。

(高松地方裁判所提出ノ一)

問題 九、永小作權又ハ之ニ類似ノ條件ヲ定メラレタル事案アリヤ、アラバ其調停ノ結果如何。(同廳提出ノ二)

高松地 中口判事 第八、第九問共ニ其取扱ノ實例ヲ承り度イノデス。

大阪地 月山判事 此問題ニ付テハ大阪府カラ昭和八年ニ刊行サレテ居ル「大阪府下ノ永小作地」ト云フ本ガアルカラ参照セラレタ度イ。尙小作調停ニ於テ取扱ツタモノガ一件アル。夫レハ小作人ガ土地ヲ開墾ノ上長年月永小作地トシ其假登記ヲ爲サントシタル際地主ガ變り訴訟トナリ結局大審院ニ於テ小作人ノ勝訴トナツタガ永小作ノ期間經過後デアツタ爲地主ニ於テ更ニ永小作權ガ消滅シタト云フコトテ土地明渡ヲ要求シ小作人ヨリ調停申立ヲシタ案件デ之ハ調停ノ結果地主ヨリ小作人ニ土

地ヲ賣渡スコトニシテ解決ヲ見タノデアルカ其所有權ト永小作權ノ價格ヲ夫々幾何ニ見積ツタカニ付テハ記録上明確ニナツテ居ナカツタノデ小作官ニ其點ヲ調査シテ貰ツタ所ニ依ルト土地全體ノ價格ヲ反當六百七十圓相當トシ其内所有權ヲ反當四百圓、永小作權ヲ反當二百七十圓ニ見積ツタト云フコトデシタ。尙斯様ナ問題デ法外調停ニナルモノモ時々アル様ダガ大體價格ノ割合ハ所有權ヲ六分、永小作權ヲ四分ニ見積ツテ居ル様デス。

高知地 龜谷判事 高知縣ニ於テハ永小作權ガ他府縣ヨリ比較的多イ様デスカ其登記ナキモノ又ハ契約ナキモノカ調停事件トナツタ實例ハナイ。

議長 次ニ第十問ニ移リマス。

問題 十、調停條項中「本件ハ賃貸借契約トス」等民法所定ノ字句挿入ノ可否及各所ノ取扱振り承リタシ。(高松地方裁判所提出ノ五)

高松地 中口判事 私ノ方デハ從來調停條項中ニ「本件ハ賃貸借契約トス」トノ字句ヲ入レテ居ツタカ最近デハ形式的ニ斯様ナ字句ヲ使用シナイ方ガ宜イト云フコトデ小作契約小作料ト云フ字句ヲ使用スルコトニシテ居ル。此點ニ付他廳ノ取扱振りヲ伺ヒ度イ。

和歌山地 松本判事 私ノ方デハ小作官カラ賃貸借契約トスルヨリモ小作契約ナル字句ヲ使用スル方ガ宜イト云フ意見ヲ述べラレタルモ裁判所トシテハ小作關係ノ訴訟ニ在リテハ常ニ永小作ナリヤ賃貸借ナリヤカ問題トナルノデアルカラ調停ニ當ツテモ其性質ヲ明確ニシテ置ク必要アリト認メ條項中ニ之ヲ明確ニスル様心掛ケテ居ル。尙是ハ派生的ノ問題デアアルガ作離料ヲ支拂フ條項ヲ設クル場合デモ作離料ト云フ法律的ニ明確デナイ字句ヲ避ケ單ニ明渡ヲ爲シタルトキハ金何圓ヲ支拂フト云フ風ニ書イテ居ル。

徳島地 黒瀬判事 條項中ニ法律的ニ問題ノアル字句ヲ使用シナイト云フコトニ付テハ別ニ異議ハナイカ實際ノ調停ニ當ツテハ形式ヨリモ實質ヲ探ル方ガ宜イト思フ。餘リ名目ニ捉ハレルトソレガ爲調停ガ困難トナル様ナ場合ハ明確ナラザル字句ヲ

使フコトモ亦已ムヲ得ナイト考ヘル。

兵庫縣窪田小作官 昭和三年頃迄ハ貸借契約ナリトストノ條項ヲ明カニ設ケテ居タガ現在ニ於テハ斯様ニ四角張ラスニ條項全體ノ趣旨カラ見テ貸借ナリヤ否ヤ判明スル程度ニシテ居ル。

奈良縣田中小作官補 實際ノ場合ニソレカ永小作ナリヤ賃貸借ナリヤヲ決メルノハ相當困難ナ問題デアルカラ調停ニ當リ個

★ニ付之ヲ明確ニスルコトハ怎ウカト思フ。從ツテ私ノ方ニ於テハ條項中ニハ明ニ賃貸借契約ナリトハ記載シナイ。尤モ地主ニ於テ賃貸借契約ナルコトノ明示ヲ強硬ニ主張スル場合ノミ何時迄賃貸ストノ字句ヲ挿入シテ居ルガ之トテ調停ニ於テ賃貸借ナリト斷定シタ趣旨デハナイ。

香川縣山尾小作官 從來「本件契約ハ賃貸借契約トスト」トノ千變一律ノ字句ヲ使用シテ調停條項ヲ作成シテ來タガ之ハ本縣ノ如キ甘土料等ノ特殊ナ慣行ノ存スル所デハ實情ニ沿ハナイ様ニ考ヘ最近裁判所トモ相談ノ上賃貸借トモ永小作トモ明確ニ記載セズシテ「地主ニ小作人ニ對シ從前通りノ小作料ヲ以テ小作セシムルモノトス」ト云フ風ニ書クコトニ改メタ。ソレガ最モ本縣ノ小作關係ノ實情ニ適シタ取扱方ダト信ジテ居ル。

大阪地 月山判事 大阪ニ於テハ賃貸借約款トストノ條項ヲ設ケ賃貸人、賃借人ト明記シ以テ賃貸借契約ナルコトヲ明確ニシ更ニ地主ノ承諾ヲ得ルニ非ザレバ轉貸スルコトヲ得ズトノ條項モ入レテ居ル。

高知地 龜谷判事 賃貸借契約トスト明記セズ從來賃貸シ來リタル土地ヲ耕作セシムト云フ程度ニシテ特ニ小作ナル文字ノ使用ヲ希望スル場合ハ永小作ニ對抗スル意味合ヨリ賃貸小作又ハ賃借小作ト明確ニシテ居ル。

京都地 村上判事 私ノ方ハ和歌山ノ意見ト同一デ實質内容ガ民法所定ノ賃貸借ナル場合ハ條項自體ニ依リ賃貸借契約ナルコトヲ表現シ得ル様明確ヲ期シ後日紛糾ガ起ラナイ様ニ心掛ケテ居ル。

和歌山地 松本判事 賃貸借契約ナル字句ハ用ヒザルモ賃貸借契約ナルコトヲ視ヒ得ル條項ヲ設ケテ居ル。
田邊農林省小作官 調停條項中ニ使用スル字句トシテ小作契約ト賃貸借契約ト何レガ宜イカトノ問題ノ様デスガ之ハ小作立法

案ノ際ニモ問題トナリ農林省ニ於テ議論セラレマシタ。小作契約ト賃貸借契約トハ質的ノ相違デハナク小作契約ト云ヘバ範圍ガ廣イノデ其中ニハ賃貸借ハ勿論組合契約無名契約、雇傭契約、請負小作等色々雜多モノヲ包含シ小作法ニ於テモ如何ナル範圍迄ヲ律スルカガ問題トナツタ。之等ノモノガ質的ニハ如何程違フカト云フコトハ此處デ簡單ニ申上グルコトハ出來ナイガ要スルニ日本ノ在來ノ小作契約ト外國流ノ賃貸借契約トハ經濟的ニ見テ非常ニ相違スルト思フ。則チ外國流ノ賃貸借契約ノ目的トスル所ハ利潤ノ追及デアリ我ガ小作契約ハ自家勞力ノ利用ニアルノデアリマス。小作契約ト賃貸借契約ノ論議ハ此位ニシタイト思ヒマス。

奥野司法書記官 調停條項中ニ賃貸借契約ナリトストノ定義ヲ掲グルコトハ如何カト思フガ後日賃貸借ナリヤ否ヤ疑問ヲ生ズルコトナキ様明確ニセラレンコトヲ希望ス。

議長 本省側ノ御意見モ承リ諒解ガ行キマシタカラ第十一問ニ移リマス。
問題 十一、調停條項ニヨリ將來ニ亘ル小作料ノ不納ヲ防止スル爲考慮スベキ事項如何。(京都府提出ノ二)

京都府内藤小作官 小作料不納防止ノ方法ハ色々アリ例ヘバ小作條件ヲ緩和スル等ハ根本的ナ問題デアル。先ニ調停ニ於テ小作料ヲ引下ゲ不作ノ場合ニ檢見等ヲ爲シ減免ヲ爲スヘキ細目條項ヲ設ケ小作條件ヲ緩和シタルニ一昨年ノ風水害後京都ノ農民組合ニ於テ組合員獲得ノ目的ヨリ調停條項ヲ破棄スルコトヲ決議シ組合員ヲシテ小作米ヲ賣却セシメ之ヲ不納シタ爲紛糾ヲ來シ地主ニ於テハ先ノ調停調書中小作人ニ契約不履行ノ場合相當ノ期間ヲ定メテ履行ヲ催告シ土地返還ヲ求メ得ベク且ツ未納少作料ニ付テモ執行シ得ベキ條項ヲ設ケテアツタ爲此調書ニ基キ小作人ニ對シ強制執行ヲ爲シ其結果長日月ニ亘リ紛糾爭議ヲ重ネ多大ノ費用ヲ要シ非常ナル損害ヲ被リタル事例ガアツタ。斯ル場合地主ニ於テハ土地ノ引上ヲ爲スヨリモ寧ロ小作料ノ支拂ヲ望ンデ居ルノデアルカラ小作料ノミニテモ確實ニ取立テ得ル方法ガアレバ承リ度イト思ヒ本問ヲ提出シタ次第デアル。

京都ニ於テハ小作人ガ期日ニ小作料ヲ支拂ハザルトキハ地主ヘ其時ノ時價換算金ニテ其支拂ヲ請求シ得ル旨ノ條項ヲ入レテ

居ルケレドモ斯ル條項ニハ執行力ガナイト云フコトデ裁判所ノ執行文附與ヲ受タルコトガ出來ナイ。

和歌山地 松本判事 私ガ熊本地方裁判所在勤當時縣營農地ニ付縣ト小作人間ニ公正證書ヲ作成シ其契約條項中ニ小作料ヲ時價ニ依リ請求スルコトヲ得トノ條項アリ此條項ニ基キ執行文ヲ附與シタ案件ニ付異議ノ申立ガアリ地方裁判所ニ於テハ其異議申立ヲ理由アリトシテ許容シタルニ債權者タル縣ヨリ更ニ大審院ヘ抗告シ大審院ニ於テモ同様異議申立理由アリトシテ抗告ヲ棄却シタ事案ガアツタ。

大阪地 月山判事 大阪ニ於テハ小作料ノ換價金トシテ執達吏ノ認定シタル時價ニヨリ請求スルコトヲ得ト言フ事ニシテ居ル奥野司法書記官 債務名義自體ニ於テ債權ノ額ガ明確ニナツテ居ル場合デナケレバ之ニ基キ強制執行ハ出來ナイト思フ。即チ第三者ノ證明書等ニ依ラネバ額ガ確定出來ナイモノニハ執行文附與ハ許サレナイト考ヘルガ然シ此點ニ付大審院ノ判例ガ明確ニナツテ居ルカ怎ウカ只今不明デス。

議長 進ンデ第十二問ニ移リマス。

問題 十二、現下ノ農村事情ヨリ觀テ調停條項ノ内容及不履行ニ對スル制裁規定ヲ緩和スルノ要ナキヤ各地ノ取扱振如何(和歌山縣提出ノ二)

和歌山縣高木小作官 現下各地ノ農村事情ハ農民組合運動ガ下火トナルニ從ヒ地主ノ勢力強大トナリ土地返還ニ關スル事件ガ多ク調停事件中其六割ガ土地返還ニ關スル事件デアルガ此農村不況時代ニ於テ調停條項ニ表ハレタ弱キ小農ノ救済方法及其取扱振リヲ承り度ク本問ヲ提案シタル次第アル。

高松地 中口判事 小作人ノ僅カナル不履行ノ制裁トシテ直ニ土地明渡ノ執行ヲナスコトハ苛酷ニ過ギルモノトシテ可成之ヲ緩和スル様ニ努メテ居ル。例ヘバ小作料滞納ノ場合ノ制裁トシテ從來一回ニテモ支拂ヲ怠リタル時ハ直ニ土地明渡ヲ請求セラル、コトニナツテ居ルガ最近デハ二年分以上滞納シタルトキニハ何日以上ノ期間ヲ定メテ催告シ尙其履行ナキ場合ニ初メテ土地明渡ノ請求ヲ爲シ得ルモノトスル等明渡ヲ請求セラル、ニモ可成餘裕ノアル様ニシテ居ル。又賃借權ヲ讓渡ノ場合從

來ハ地主ノ書面上ノ承諾アルニ非ザレバ爲シ得ナイ旨ノ條項ガアツタガ最近ハ小作人ニ於テ小作權ノ讓渡又ハ土地ノ使用方

法ノ變更ヲ地主ニ申出タル場合地主ハ正當ナル理由ナクシテ之ヲ拒ミ得ザル旨ノ條項ヲ設ケテ居ル。

德島縣佐々木小作官 德島デハ從來小作料ノ支拂不履行ノ場合ニ對スル制裁規定ハ設ケナイコトニシテ居ルガ最近ハ不況ノ爲小作料ヲ滞納スル者多クソレガ爲地主ヨリ惡質ノ小作人ナルニヨリ將來ノ制裁規定ヲ設ケテ吳レト請求ガアツタ場合ハ一ヶ月ノ期間ヲ置キ催告シ之ニ應ジナイトキハ土地返還ヲ請求出來ル旨ノ條項ヲ設ケテ居ル。又過去ノ未納小作料ニ付分割拂ヲ定メル場合分割拂ノ不履行ニ對スル制裁トシテ其支拂ナキトキハ地主ハ一ヶ月以上ノ期間ヲ置イテ催告シ之ニ應ゼザル場合初メテ土地返還ノ請求ヲ爲シ得ル旨ノ條項ヲ設ケルコトニシテ居ル。

大阪地 月山判事 普通二ケ年分ヲ滞納シタル場合一ヶ月ノ期間ヲ置キ催告シ之ニ應ゼストキハ其制裁トシテ一ケ年内ニ土地返還ノ請求ヲ爲シ得ベキ旨ノ條項ヲ設ケテ居ルガ未ダ土地明渡ノ執行文ヲ附與シタル事例ハナイ。尙執行文附與ノ申請アリタリトスルモ一應小作官ト打合セ地主小作人双方ノ實情ヲ能ク調査シタル上申請ノ許否ヲ決スル方針デアル。

德島縣 佐々木小作官 其點ハ德島モ同様デ裁判所カラノ通知ニ依リ小作官ガ不履行ノ事情ヲ調査シタル上小作人ニ對シテハ或ル期間内ニ履行スル様注意シ地主ニ對シテハ暫時猶豫スルコトヲ承諾セシメ一方裁判所ニ對シテモ執行文附與ヲ一時待ツテ貰ヒ其間ニ於テ小作官ガ調停ヲ試ミルコトニシテ居ルノデ執行文附與申請事件ノ四割位ハ之ニヨリ圓滿ニ解決ヲ見テ居ル。

高松地 中口判事 高松ニ於テモ只今ノ御説ト同様執行文附與ノ申請アリタル場合ハ小作官ニ實情調査ヲ求メ其報告ヲ待チ執行文ヲ附與スルカ又ハ其他ニ適當ナル方法ヲ講ジ解決ヲ計ルコトニシテ居ル。

奥野司法書記官 第十一問ニ對シ一言補充シテ置クガ昭和八年六月二十日ノ大審院決定ハ公正證書ノ記載ニ依レバ或時期ヨリ或時期迄ノ賃料ヲ取決メ其後ノ賃料ハ協定スルコト、ナツテ居ル場合其期間後小作人ヨリ協定ヲ求メタルニ地主ニ於テ之ニ應ゼズ却ツテ期間後ノ賃料ニ付右公正證書正本ニ執行文附與ヲ得テ執行シタノデ小作人ハ民訴五一八條第二項ノ條件ニ繫

ル場合ニ該當スルモノトシテ該執行文附與ニ付異議ノ申立ヲ爲シタ案件デ大審院ニ於テハ協定スルト云フ趣旨ハ民訴第五一八條第二項ノ所謂債權者ガ證明書ヲ以テ證明スベキ條件ニ繫ルモノトシテ異議ハ理由アリトノ決定ヲシタノデアアルガ此反面解釋ヲ以テスレバ大審院ハ債務名義自體ニヨリ債權ノ數額ガ明確ニナラナクモ證明書ト合セ明カトナル場合ハ裁所長ノ命令アルトキニ限り執行文附與ヲ爲シ得ルトノ見解ヲ採ツテ居ルモノト思料スル。

議長 夫レデハ第十三問ニ移リマス。

○小作料ニ關スルモノ

問題 十三、米穀自治管理法ニ依リ地主ノ粃貯藏ヲ必要トスル場合從來玄米ヲ以テ納入セル小作料ノ適當ナル換算方法如何(滋賀縣提出ノ一)

滋賀縣廣部小作官 米穀自治管理法實施ノ結果地主組合ガ粃貯藏ヲ指定セラレタ場合ニハ地主ハ小作料ヲ粃テ取ラネバナラナイコトニナルガ從來玄米ヲ以テ取ツテ居タ小作料ヲ粃ヲ以テ換算スルニハ如何ナル割合ニ依ルベキカガ問題ニナルト思フ。殊ニ本縣ニ於テハ從來粃ヲ以テ納入スル慣行ガナイノデ其換算率ガ不明デアアル。他府縣ノ實例如何。

香川縣山尾小作官 本縣ニ於ケル農事試驗場ノ試驗ノ結果ニ依レバ玄米ト粃ノ換算率即粃摺歩合ハ

容量ヲ以テスレバ五七、三%

重量ヲ以テスレバ八四、三%

トナツテ居リマス。尙米穀自治管理法ノ實施ノ結果粃ヲ貯藏スル様ニナレバ粃取引モ相當多クナリ粃ノ相場モ出來ルデシヨウカラ粃ノ相場ト玄米ノ相場ノ比較ニ依リ容易ニ其換算ノ割合モ決定シ得ルト思フ。

德島縣佐々木小作官 富民協會ノ發表ニ係ル粃一升ノ重量ニ對スル玄米換算表ニ依ラレテハ如何。之ハ新潟縣ニ於ケル試驗ノ結果ヲ富民協會ニ於テ關西地方ニ當彼ル様修正ヲ加ヘタモノデ今日ノ處ニ利用シタ方ガ宜イト思フ。

滋賀縣廣部小作官 只今ノ佐々木小作官御意見ノ富民協會ノ換算表等ニ付テハ研究シテ居ルガソレヨリモ實際取引ノ實例ガア

ツタラ承リ度イ。

和歌山縣高木小作官 實例ナシ。

德島縣佐々木小作官 實例ナシ。

兵庫縣窪田小作官 此問題ハ農事試驗場邊リデ研究シテ貰フコトニシ小作官ノ方デハ最初カラ幾何ノ割合等ト決定シナイ方ガ宜イト思フ。

滋賀縣廣部小作官 獎勵米ノ如ク地主ガ自發的ニ出スベキ性質ノモノハ縣ノ方デ干涉スルノハ怎ウカトモ思ヘルガ此問題ニ付テハ縣トシテ何等カノ方針ヲ與ヘル必要ガアルト思フ。

議長 他ニ御意見ガナケレバ第十四問ニ移リマス。

問題 十四、強制執行ニヨリ所有權ノ移動セル小作地ノ新舊地主ノ小作料分配方法如何。(滋賀縣提出ノ二)

滋賀縣廣部小作官 一般ノ取引ニ付テハ問題トナルコトハナイガ、競賣ニ依リ所有權ガ移轉シタ場合新舊地主双方カラ小作料ヲ請求セラレ小作人ニ於テ其何レノ地主ニ納入スベキカニ付非常ニ困ルコトガアル。實際ノ調停ニ當ツテハ舊地主ヲ利害關係人トシテ呼出シ適當ニ解決シテ居ルガ小作料ヲ新舊地主ニ分配スルニ付何カ適當ナル方法如何。

奈良縣田中小作官補 民法第八十九條第二項ニハ法定果實トシテ分配方法モ明白ニナツテ居ルガ實際問題トシテハ地方ニ慣行ガアリ或ル地方デハ八月ノ除草期ヲ境トシテ決定シテ居ル所モアル。十一、二月頃ノ賣買ナラバ問題ハナイガ耕作中ニ所有權ガ移轉シタ場合其小作料分配方法ハ問題ニナルト思フ。

和欲山縣高木小作官 税金ヲ納メタ割合ニ從ヒ分配シテハ如何。

高松地 紫藤判事 法律上ハ民法第八十九條第二項ニヨリ日割計算ト云フコトニ明白トナツテ居ルガ實際問題トシテハ家賃等ト異リ日割ノ方法ハ不合理ノ様ニ思フ故其地方々々ノ慣行ヲ調査シテ決定スルヨリ外ナイト考ヘル。從ツテ調停ニ當ツテモ事案ニ依リ一定シテ居ラナイ。

德島縣佐々木小作官 一般ノ慣行ハ出穂期前ノ賣買ノ場合ハ新地主ニ於テ取得シ出穂期後八月割又ハ日割ノ方法ニ依ツテ居ル様デアル。競賣等ノ場合ハ月割ヲ以テ調停シテ居ル。

奈良縣青山小作官 茨城縣ニ居ル頃ノ事例ダガ舊地主ニ全部取得セシメタコトガアル。

田邊農林省小作官 参考迄ニ申上ルガ實際ノ慣行トシテ宮城縣ニ於テハ九月以前ノ賣買ノ場合ハ新地主ニ於テ小作料ヲ取得シ其後ノ賣買ニ係ルトキハ舊地主ニ於テ取得スルコトニナツテ居ル。又佐賀縣ニ於テハ總テ新地主ニ納メルガ十月中旬以後ノ賣買ノ場合ハ小作料ヲ金ニ換算シテ之ヲ新地主ヨリ舊地主ニ支拂ヒ所謂青田ノ賣買セラレタトキハ全部新地主ノ取得トシテ居ル。

議長 次ニ移リマスガ第十五問乃至第十九問ハ類似ノ問題デスカラ之ヲ一括シテ御協議願フコトニ致シマス。

問題 十五、特殊優良米(旭標識米及ゴム搦米)ヲ小作料トシテ納入セル場合ノ補給米支給ノ標準並其狀況ヲ承リタシ。(滋賀縣提出ノ三)

同 十六、動力糶摺機ノ普及ニヨリ單位容量ニ對スル重量漸増ノ傾向アリ小作料ノ減免獎勵米ノ増額等如何ニ取扱ハレツ、アリヤ。(兵庫縣提出ノ一)

同 十七、穀物検査施行ニ伴ヒ小作米ノ標準ヲ設定シタル場合小作補給米交付ニ關シ各府縣ノ實情承リ度シ。(高知縣提出ノ一)

同 十八、各縣ニ於テ米生産検査等級數ニヨリ小作人ニ對シ獎勵、補給補償等ノ名ノ下ニ小作米一俵又ハ一石ニ交付シ居レル振合如何。

イ、右各等標準米ノ一升ノ重量。

ロ、右米ヲ交付スルニ至リタル事情。

ハ、小作人カ契約小作米ヨリ低キ等級ノモノヲ納付シタル場合ヲモ知リタシ。(德島地方裁判所提出ノ一)

同 十九、米穀重量検査制度實施ノ小作關係ニ及ス影響並之カ對策ニ付意見承リ度シ。(高知縣提出ノ二)

滋賀縣廣部小作官 縣ノ産米検査實施ニ依リ産米ノ品質ハ改良セラレ殊ニ最近旭種ノ獎勵ヤ「ゴム」摺ノ普及ニ連レ益々品質カ良クナツテ來タ。政府ノ買上價格モ旭種ハ一石ニ付二十錢乃至三十錢割高ニシテ又「ゴム」摺米モ石三十錢乃至四十錢ノ割高ヲ以テ一般ニ取引サレテ居ル實情デアル。而シテ之等優良米ヲ以テ小作料ヲ納入スル場合地主ニ於テ補給米又ハ獎勵米トシテ其若干ヲ小作人ニ割戻スルモノモアリ又之ヲシナイモノモアツテ一定シテ居ラナイ様ダガ各府縣ニ於ケル補給米支給ノ標準ト其狀況ヲ承リ度シ。

兵庫縣窪田小作官 此問題(第十六問)ハ滋賀縣ト全く同趣旨ヲ以テ提出シタノデアル。近ク農林省ニ於テ其標準ヲ示サル、ト云フコトヲ聞イテ居ルガ現在糶摺ノ約九割ガ動力糶摺機ヲ使用シテ居ル様ダ。舊來ノ土摺機ヲ使用シタ玄米一升ノ重量ハ三九〇匁デアツタガ動力機ヲ使用シタモノハ四〇〇匁トナリ其重量ガ増加シテ居ル。從ツテ動力機ノ玄米ヲ小作米トシテ納入スレバ其實質ニ於テ從來ヨリモ餘計ノ小作米ヲ納メルコト、ナルノデ姫路地方ニ於テハ之ガ問題トナツテ居ルノデス。他府縣ノ取扱ノ實際如何。

高知縣眞田小作官補 高知縣デハ産米ノ改良ガ他府縣ヨリ遅レテ居ル様デアル。ソレハ産米検査ガ強制的ニナツテ居ラナイ爲ト産米ノ量ガ少ク縣下ノ全消費ヲ充タスニ足ラズ從ツテ縣外市場ニ於テ競争ガ行ハレナイ關係ニヨルモノト思フ。現在産米検査ヲ施行シテ居ル町村ハ縣下ニ約七〇アルニ過ギナイ。之等ノ町村ニ成テハ補給米トシテ甲級ヲ納入シタ場合ハ一石ニ付七升五合、乙級ハ五升四合、丙級ハ三升五合ヲ支給シテ居ル。

他府縣ニ於テ小作米ノ標準並補給米ノ額等決定セラレタ例如何。

第十九問ニ付テハ本問提出後先般農林省ニ於ケル小作官會議ノ際各小作官ヨリ意見ヲ聞イタガ尙此際重ネテ御意見ヲ伺フコトガ出來レバ幸デアル。

德島地 黒瀬判事 最近生産検査等級改正ノ結果補給米ノ問題ニ付小作人三八〇名地主一五〇名ノ大爭議ガ起ツタガ其詳細ニ

付テハ本縣小作官ヨリ説明シテ貰フコトニシ私ハ補給米ニ付各府縣ノ取扱振リヲ承知シ度イト思フ。

德島縣佐々木小作官 只今黒瀬判事ヨリ申述ベマシタ大爭議ト云フノハ關係反別一四〇町歩ニ及ブモノデ最初農民組合ノ指導員カラロール摺ノ合格米ニ對シ一石ニ付五升ノ補給米割増ヲ要求シタコトニ端ヲ發シ其結果ガ縣下全體ノ地主小作人ニ影響スル大問題デアアルノデ小作官ハ穀物検査所及關係各方面ト連絡ヲ取り公正ナル方針ヲ確立シテ解決シ度イモノト努力シテ居ルガ未ダ其成案ヲ得テ居ラナイ。生産米検査實施當時ハ合格不合格ノ二等級デアツタカラ香川縣ノ例ニ倣ヒ合格米ニ對シテハ石五升ノ補給米ヲ支給シ其後等級ノ改正ニ依リ四等ヲ以テ小作米ノ標準トシ一石ニ付三等米ハ五升、二等米ハ七升、一等米ハ一斗ノ各補給米ヲ支給シ不合格米ニハ五升ノ罰米ヲ取ルコト、ナリ此制度ガ昭和九年度迄行ハレテ居タ。然シテ昭和十年度ヨリ更ニ等級改正セラレ合格米ハ一等級ヨリ五等級迄ニ分レル様ニナツタカラ補給米モ一等及二等米ニハ七升五合、三等米ニハ五升トシ四等米ニハ補給米ナシト云フコト、シタ。處ガ農民組合ニ於テハ四等米ニモ補給米ヲ支給セヨト云フ爭議題目ヲ唱ヘ併セテ最近「ロール」摺ノ普及ト共ニ「ロール」摺米ニ付テモ補給米ヲ支給セヨト主張シ茲ニ爭議ガ起ツタノデア

ル。「ロール」摺米ハ從來ノ土摺米ニ比シ米粒ノ肌ガ滑カナ爲樹ニ多ク這入り從來一升ノ重量四〇〇匁ノモノガ「ロール」摺米ハ四二〇匁トナリ從ツテ市場格價ニモ差異ヲ生ズルニ至ツタ。ソレデ組合ノ方デハ「ロール」摺米ニハ五升ノ補給米ヲ要求シテ居ルノニ對シ地主ノ方デハ補給米ノ支給ニ反對シ我々ノ方デモ此標準ガ確立シナイ爲爭議ガ仲々解決シナイ。此問題ハ全國的ニ見テモ區々デアリ新潟縣ニ於テハ「ロール」摺米一石ニ付二十錢乃至八十錢、秋田縣ニ於テハ五十錢乃至八十錢、山形縣ニ於テハ五十錢、愛知縣モ五十錢、栃木縣ハ二十五錢乃至六十錢、島根縣ニ於テハ一升ノ補給米ヲ出スコトニナツテ居ル。御集リノ各府縣ニ於テ「ロール」摺米ニ付何程ノ補給米ヲ支給シテ居ラル、カ承リ度イ。尙縣令ヲ以テ生産検査ヲ強制シテ居ル縣ニ於テモ補給米獎勵米ニ關シテハ何等縣令ニ規定ノナイ所ノ多イノハ片手落ノ様ニ思ハレル。宮城縣デハ縣令ヲ以テ補給米獎勵米ハ査定委員會ヲ開イテ決定スルコトニ規定シテ居ルト云フコトデア

ル。補給米等ニ付テハ縣ニ於テ之ヲ決定スベキ問題ダト考ヘル。旭種ニ付テハ一般等級ニ依ル獎勵米ノ外ニ一石四十錢位支給シテ居ル地方モ二、三アル様ニ聞イテ居ル。不合格米ニ對スル罰米又ハ込米ハ小作人ノ團體ノ勢力ガ弱イ地方デハ取ツテ居ル様デアアルガ勢力ノ強イ地方デハ之ヲ取ツテ居ナイ實情デア

ル。最後ニ各府縣ノ標準米ノ一升ノ重量ガ判ツテ居レバ聞カセテ貰ヒ度イ。和歌山縣高木小作官 私ノ方デハ一般補給米ハ一石ニ付一等米ハ七升、二等米ハ五升、三等米ハ三升、四等米ハ二升トシ旭種ニ付テハ一般補給米ノ率ヨリモ二割増ト云フコトニナツテ居ル。

奈良縣田中小作官補 私ノ方デハ「ロール」摺米ニハ一石ニ付七八升ノ補給米ヲ支給シテ居ル。各郡農會ノ決定スル所ニ依レバ合格米甲乙丙ノ内甲乙ニ對シテハ一石ニ付三升、丙ノ上ニ對シテハ二升ノ補給米ヲ支給シ丙ノ下ガ標準米デニ對シテハ補給米ヲ支給セズ不合格米ニ對シテハ罰米トシテ二升乃至三升ヲ取り又旭種ハ全産米ノ七割五分ヲ占メ之ニ對シテハ特ニ補給米ヲ支給シナイコトニナツテ居ル。然シ調停ニ當リ旭種ニハ補給米一升ヲ支給スルコトニシテ例ガアル。

兵庫縣窪田小作官 標準米一升ノ重量ニ付テハ私ノ前任地ノ長野縣ニ於テ詳細ニ調査シタモノガアルカラ同縣ニ照會ナサレバ知ラセテ呉レルト思フ。

田邊農林省小作官 第十九問ノ米穀重量検査制度實施ノ小作關係ニ及ボス影響ト對策ニ付テハ先般ノ農林省ニ於ケル小作官會議ニ於テ協議シタカラ此處デハ其答ヲ省ク。

第十八問ノ標準米一升ノ重量ニ付テハ農林省農産課ニ於テ各府縣別ニ調査シタモノガアルカラ御問合セテ願フ。

第十七問ニ付テモ農林省農産課ニ調査シタモノガアル。第十六問ニ付テハ動力糶摺機ヲ使用シタモノト土摺機ヲ使用シタモノトノ重量ノ相違ニ付秋田縣小作係ニ於テ詳細ニ研究シタ結果ガ同縣農會報ニ發表セラレテ居ルカラ同縣ニ照會スレバ知ラセテ呉レルト思フ。

第十五問ノ旭種ハ岡山縣ノ例ニ依レバ一俵ニ付五合、島根縣ノ例ニ依レバ一俵ニ付一升乃至一升五合ノ補給米ヲ夫レノ支給スルコトニナツテ居ル。

議長 之ヨリ十五分間休憩致シマス。
午後四時十五分再開

議長 引續キ第二十問ニ移リマス。

問題 二十、小作調停ニ於テ小作料減免ノ基準タル平年作ヲ如何ニ定メ居ラル、ヤ各縣ノ取扱振り承リタシ。(大津地方裁判所提出)

大津地 佐藤判事 將來ノ小作契約確保ニ付テノ調停ニアリテハ不作ノ場合小作料ヲ減免スルト云フ條項ヲ設ケルノガ普通デアル。然ラバ減免ノ基準タル平年作ヲ如何ニシテ確定シテ居ラル、カ調停調書ニハ其平年作ヲ如何ナル方法ヲ以テ表ハシテ居ラル、カ。例ヘバ平年作ハ小作料ノ何割又ハ一反歩ニ付何石何斗若クハ何俵ト云フ風ニ記載シテ居ラル、ヤヲ承知シ度イ。

京都府内藤小作官 大キナ爭議ガ多イ爲各小作人毎ニ各反別ニ付夫々平年作ヲ定メルコトハ實行不能デアルカラ村農會技術員又ハ村長ノ調査シタ分ヲ頭ニ置イテ小作料ノ高低ニ應ジ大體其十八割乃至二十五割位ノ範圍ニ於テ決定シテ居ル。然シ此方法ハ決シテ合理的ナリトハ思ツテ居ラス。

兵庫縣窪田小作官 今年ノ作柄ガ悪イカラ減免シテ呉レト云フ即チ一時的減免要求ノ場合小作人ハ平年作ヲ高ク主張シ其反對ニ永久的小作料減額要求ノ場合小作人ハ平年作ヲ低ク云ヒ地主ハ高ク主張スル故此平年作ノ決定ハ中々困難ナ問題デ數額的ニ完全ニ取決メルコトハ出來ナイ。私ハ經驗上平年作決定ニ付次ノ三方法ニ依ツテ居ル。

一、實際ニ付一筆毎ニ其收穫量ヲ毎年調査シテ五ヶ年間分ヲ平均スル方法。此方法ハ時間ガ要ルノデ稀ニシカヤラナイ。
二、關係土地附近ノ古老篤農家ニ訊ネテ平年作ノ見當ヲ付ケル方法。實際上此方法ヲ採ルコトガ最も多イ。

三、小作料額ニ一定ノ額(普通反當一石二斗ヲ加算)ヲ加算スル方法。之ハ机上デ算出シ得ラレル。

田邊農林省小作官 平年作ノ標準ニ付テハ本省ニモ成案ハナイ。全國的ニ最も多イノハ過去七年ノ内特ニ作柄ノ最も良好ナ年ト惡イ年ヲ除イタ五ヶ年ノ平均ヲ以テ平年作ト爲ス方法デアル。新潟縣ニ於テハ小作料ノ十八割乃至二十割トスルノガ多イト聞イテ居ル。然シ何割増ニスルカト云フコトハ中々六ヶ數イコトデアル。

議長 第二十問ハ此程度ニシテ第二十一問ニ移リマス。

○小雜料又ハ甘土料ニ關スルモノ

問題 二十一、最近左ノ場合ニ於ケル作雜料ノ標準額ニ付各廳ノ取扱實例ヲ承リタシ。

イ、小作料滯納ニ因ル小作地明渡ノ請求アリタルトキ。

ロ、地主ヨリ常習的ニ作雜料ノ交付ヲ目的トシテ地主ニ無斷小作人ヨリ賃借權ノ讓渡ヲ受ケ不法占據ヲ爲ス者ニ對シ小作地明渡ノ請求ヲ爲シタルトキ。

ハ、地主ガ負債整理ノ爲轉賣ヲ目的トシ小作地明渡請求ヲ爲シタルトキ。

ニ、自作ヲ目的トシテ小作地明渡ノ請求アリタルトキ。

ホ、小作地ガ市街地宅地トシテ利用スルコトヲ目的トシテ明渡ノ請求アリタルトキ。

ヘ、小作地ガ工場其他ノ工業上ノ企業目的トシ明渡ノ要求アリタルトキ。(神戸地方裁判所提出ノ一)

神戸地 花淵判事 地主ガ小作地返還要求ヲ爲ス場合ニモ出題ノ如ク諸理由ガアツテ之等事情ノ異ナル毎ニ作雜料ノ數額モ夫々異ナルコトアルベク各事情ノ間ニ如何ナル標準ヲ設ケテ作雜料ノ數額ヲ決定シ居ラル、カ取扱ノ大體ノ標準如何。

大阪地 月山判事 作雜料ニ付テノ大體ノ標準ハ定メテ居ルケレドモ出題ノ如キ各場合ニ付何程ト數字の割合ハ申上ダルコト

ガ出來ナイ。實際個々ノ事件ニ付事情ヲ參酌シテ決定シテ居ル。

德島地 黒瀬判事

(イ)ノ場合ハ滯納小作料ヲ免除スルト云フ様ナ方法ニ依ルコト、シ別ニ作離料トシテハ與ヘテ居ラナイ。
(ロ)ノ場合作離料ヲ與フルコトハ寧ロ不當デアルカラ之ヲ與ヘナイ。
(ハ)(ニ)ノ場合ハ其土地ガ開墾地デアツタトカ其他特別ノ事情アル場合ハ別トシテ普通ハ一ケ年分ノ小作料位ヲ與フルコト、シテ居ル。

(ホ)(ヘ)ノ場合ハ地價ノ値上リノ程度等具體的ノ事情ニモ依ルガ反當百圓乃至五百圓ヲ與ヘタ例ガアル。

奈良地 青木判事 (ロ)ノ如キ場合調停ヲ受理シテ作離料ニ付問題トシテ居ラル、ノカ又不法占據ナルガ故ニ調停トシテハ受理シテ居ラナイカヲ承リ度イ。

神戸地 花淵判事 此場合ニモ調停ヲ受理シテ調停ノ結果作離料トシテ反當三百五十圓乃至五百圓ヲ支給サセタ實例ガアル。

京都地 村上判事 何レヨリ申立タノデスカ。

神戸地 花淵判事 地主ヨリ申立タノデス。

奈良地 青木判事 斯様ナ不法占據者トノ間ノ問題ニ付テハ調停申立ヲ受理シナイ方ガ穩當ト思フガ本省ノ御意見ヲ承リ度イ。

奥野司法書記官 不法占據者ヨリノ調停申立ハ受理スベキモノデナイ。但シ地主ヨリ小作關係アリトシテ調停申立ヲ爲シタルトキハ一應受理シテ相手方ノ占有ガ不法ナルコトヲ認メ得タ場合ニハ小作關係存在セザルコトヲ納得サセテ調停ヲ打切ルヨリ外ハナイ。

兵庫縣窪田小作官 作離料ヲ取ルコトヲ常習トスル所謂札附ノ者ニ對シ裁判所ニ於テ何トカ取締ル方法ナキヤ。

奥野司法書記官 左様ナ場合ハ地主ニ對シ訴訟ノ方法ヲ以テスルコトヲ勵メル方宜イ。

徳島縣佐々木小作官 (ロ)ノ場合不法占據者ヨリノ申立ヲ受理スルコトハ却テ其不法ヲ助長スルコトニナルカラ受理シナイコトニハ賛成デアルガ地主ヨリノ調停申立ハ之ヲ受理シテ調停シテヤル方宜イト思フ。

高知地 龜谷判事 小作人ニ於テ地主ノ承諾ヲ得ズ勝手ニ第三者ニ小作地ヲ轉貸シタ様ナ場合ハ地主ノ方面カラ見ルト不法占有者ト云フコトニナルガ斯様ナ場合ハ調停ヲ受理シテモ宜イノデハナイカト思フ。

奥野司法書記官 只今述べラレタ様ナ場合ハ受理シテモ差支ナイト思フ。

和歌地 松本判事 不法占據者ヨリノ申立ハ受理シナイトシテモ斯ル惡辣ナ者ニナルト地主ニ對シテ一種ノ脅迫ノ如キコトヲ敢テシ多額ノ作離料ヲ取得シ様ト云フノデアルカラ地主ニ於テハ訴訟ヲスレバ勝ツコトガ判ツテ居テモ後難ヲ怖レテ調停ニ依リ解決セントシ調停申立ヲ爲スモノガアル。此様ナ場合裁判所ニ正シキヲ保護シ不正ヲ匡ス意味ニ於テモ充分考慮シテ臨マネバナラヌト思フ。

奥野司法書記官 地主ハ調停ヲ希望シナイケレドモ他ニ解決ノ方法ナキ爲調停ヲ申立テタト云フ様ナモノデアツテモ調停ハ單ニ争ヲナクスルコトノミガ目的デナイカラ公正妥當ナル解決ヲ目標トシテ善處シナクテハナラヌカト思フ。假令當事者ニ於テ折合ツテモ苟モ裁判所ノ干與スル調停タル以上公正妥當テナケレバ調停成立セシムル價値ナク不調トスルモ亦已ムヲ得ナイモノト信ヅル。此點誤解ナキ様御留意ヲ願フ。

議長 次第二十二問ニ移リマス。

問題 二十二、斗代卸ニ關シ小作調停申立アリタル場合共調停方針承リタシ。

説明 甘土料ヲ支拂ヒ得ザル小作人ガ反當四斗位ヲ其利子米トシテ地主ニ支拂フモノナリ。(香川縣提出ノ一)

香川縣山尾小作官 斗代卸ハ本縣ニ特有ナル慣行デアツテ其詳細ハ手許ニ配付シタ印刷物中ニ書イテアルカラ之ヲ省略シ其概略ヲ申上グルコトニ致シマス。

小作人ガ地主ヨリ初メテ小作ヲ受ケル際甘土料トシテ一定ノ金額ヲ支拂フノガ普通デアアルガ一時ニ其金額ヲ支拂ヒ得ザル場合毎年小作料ノ外ニ甘土料ノ利子ニ相當スル一定ノ米穀(反當四斗位)ヲ支拂ハセルコト、シ小作ヲ許スコトガアル。之ヲ斗代卸ト稱スル。斗代卸ハ一時ニ多額ノ甘土料ヲ支拂ハナイカラ小作ニハ便宜デアアルガ一方小作料ノ外ニ斗代ヲ支拂フコトハ

非常ニ重イ負擔トナリ且甘土料ヲ支拂ツテ居ラナイカラ地主ニ於テ必要ナ場合任意ニ土地引上ヲ爲シ得ルノデ小作人ノ不安モ相當大ナルモノガアル。從ツテ斗代卸ハ非常ニ小作料ノ高イ小作ト同一トナリ且小作人ノ不安モアル故調停ニ當リ斗代卸ノ方法ヲ可及的中止スル様ニ努メテ居ル。

茲ニ本縣特有ノ慣行トシテ御報告旁斯ル慣行ハ私ノ考ノ如ク之ヲ中止スル様ニシタ方宜イカ又放任シテモ差支ナイモノカ御意見ヲ承ルコトガ出來レバ結構デス。

京都地 村上判事 小作人間ニ於テ小作權ヲ賣買スル場合賣主ノ取ル金モ地主ガ自作地ヲ卸付ノ際小作人ヨリ取ル金モ共ニ甘土料ト稱シテ居ルノデスカ。

香川縣 内海小作官補 現在デハ其何レモ甘土料ト云ツテ居ル。

大津地 佐藤判事 甘土料ヲ小作人ヨリ取ル場合小作料ハ普通デスカ。

香川縣内海小作官補 左様普通デス。

京都地 村上判事 土地返還ノ調停ノ場合甘土料ハ計算ノ中ニ居レテ居ルノデスカ。

香川縣内海小作官補 計算關係ニ入レテ居リマス。

和歌山地 松本判事 私モ當香川縣生レノ者デスカラ甘土料ニ付一言申上グ。甘土料ノ性質ガ法律上敷金ノ性質ヲ有スルヤ否

ヤ問題デスガ甘土料ニハ利子ヲ付セズ地主ガ當初五十圓ノ甘土料ヲ遺ツテ居レバ土地引上ノ際ニハ矢張り其五十圓丈ケ返ヘ

ス様ニナツテ居ル。甘土料ヲ納メテ居ルトキハ小作人ハ小作權ヲ轉賣スルコトガ出來ルカト云フコトニ付テハ矢張り地主ノ

承諾ヲ得ナケレバナライ。

香川縣山尾小作官 本縣ニ於テハ地主ノ承諾ヲ得テ讓渡スルモノト承諾ヲ得ズシテ讓渡スルモノトハ半々位デアル。

和歌山地 松本判事 高松地方ニ於テ會テ甘土權ヲ認メタル一事例トシテハ四國水力電氣會社ガ電車線路ヲ敷設ノ爲田地ヲ買

上ゲタル時地主ハ承知シタガ小作人ハ土地ヲ取上ゲラレテハ困ルト云フノデ問題トナリ小作人ヨリ會社ヘ談判シ會社ニ於テ

ハ訴訟ヲ爲スノ面倒ヲ避ケル爲幾分ノ金ヲ出シタコトガアル。

香川縣山尾小作官 沿革的ニ申上グレバ本縣ニ於テハ耕地面積ノ少イ關係上小作權ニ價格ヲ生ジタモノデ勿論法律的ニハ貸貸

借デアアルガ實質的ニハ永小作權ト同一ノ性質ヲ有スル甘土權ノ慣行ガ古來發生シテ來タモノデ一面大正十二三年頃ノ大爭議

ニ因リ小作料低下シタル爲小作人ニ有利トナリ小作權ノ價格ガ一層高騰シ小作人ハ小作權ニ付全然所有權ト同一觀念ヲ持ツ

様ニナツタ。甘土權ノ存在スル小作權ヲ賣買スル場合ニモ小作人ハ地主ノ承諾ヲ得ズニ賣買シ其事後承諾ヲ得ルノガ普通デ

アル。

現在デハ小作ヲサセタ當初甘土料トシテ受取ツテ居ラヌ地主モ大體土地引上ノ際ハ甘土料ヲ補償セネバナラスト云フ觀念ヲ

抱クニ至リ最近匡救事業ニ依ル道路擴張ノ際斯様ナ地主ニ於テ小作人ニ補償シテキル。

議長 斗代卸ノ慣行ハ他府縣ニ例ガナイ様デスカラ本問ハ此程度ニ打切り第二十三問ニ移リマス。

○小作關係ノ訴訟又ハ執行ニ關スルモノ

問題 二十三、地方裁判所ガ小作調停事件トシテ受理調停中ノ物件ナルコトヲ知ラズシテ區裁判所ガ該物件ニ對シ假差押ノ

決定ヲ爲シタル後被申請人ヨリ小作調停繫屬中ノ證明書ヲ提出シタル場合又ハ執行異議ノ訴訟ニ出タル場合執行裁判

所ノ小作調停法第九條ニヨル處置如何。(德島縣提出ノ一)

附 小作調停法第九條ニ關スル大審院判例ヲ大審院判例集ニ登載セシムル様司法省ニ於テ措置セラレタシ。

德島縣佐々木小作官 此問題ハ既ニ大阪控訴院管内ノ協議會問題ニナツタコトモアリ又東京、宮城兩控訴院管内ノ協議會ニモ

問題トナリ私モ奥野書記官ノ之ニ對スル御説明ヲ拜聽シタコトヲ覺ヘテ居ルカラ今更屋上屋ヲ架スル様デハアルケレドモ更

ニ此機會ニ於テ各判事ノ御意見ヲ承リ度イト思ヒ本問ヲ提出シタ次第デアル。尙之ニ附加シテ此點ニ關スル大審院判例ヲ大

審院判例集ニ登載スル様司法省ニ於テ御配慮ヲ願フ。

和歌山地 松本判事 訴訟提起後調停ノ申立アリタル場合ハ訴訟手續ヲ中止スベキコトハ小作調停法第九條ニ明文ガアルガ調

停申立後訴訟ノ提起アリタル場合ニ付テハ法文上必ズシモ明白デハナイ。然シ右法條ノ解釋上訴訟提起ノ前後ニヨリ區別スベキ理由ナク此場合ニモ訴訟手續ハ中止スルト解スルノガ正當ダト考ヘル。尙假差押假處分等ノ保全手續ガ右第九條ノ所謂訴訟中ニ包含セラレテ居ルト解スベキヤ否ヤニ付テハ議論ノ餘地ハアルガ大審院ニ於テハ之ヲ積極ニ解シテ居ル様デアル。而シテ調停申立アリタル土地ニ付區裁判所ニ假差押申請ガアリ區裁判所ニ於テ調停申立ノ事實ヲ知ラズシテ其決定ヲ爲シタル場合該決定ハ當然無効トナルモノデハナク異議ノ手續ニ依リ取消サル、迄有效ト解シナケレバナラヌ。尤モ此場合調停主任判事ガ假差押ノ解放ヲ勸告シテ調停ノ圓滿ナル進行ヲ計ルノモ一方法ト考ヘル。

實際問題トシテハ調停申立ヲ爲シ未ダ解決ニ至ラザル間ニ於テ地主ガ調停ノ解決ヲ有利ニ導ク目的ヲ以テ假差押ノ方法ニ出デントスルモノモアルケレドモ又小作人ニ於テ調停ノ進行中ニ財産ヲ隠匿シテ他日執行アリタル場合其效果ノナイ様ニ企圖スル者モアルカラ一概ニ調停進行中ハ保全處分ガ出來ナイトスルコトハ怎ウカト思フ。自分ノ意見トシテハ實情ニ即シ保全手續トシテノ假差押假處分ヲ許スト否トヲ裁判所ノ裁量ニ委ネルコトガ最モ宜イト考ヘル。

德島地 黒瀬判事 私ノ方デ起ツタ一例ヲ申上ゲル。調停進行中ノ事件ニ付區裁判所ニ假差押ノ申請アリ其時區裁判所ノ判事ガ此場合假差押手續ハ中止スベキモノデナイトノ見解ヲ有シテ居ツタノデ假差押決定ヲシタ。然ルニ小作人ノ方カラ之ニ對シ異議申立アリ其後判事ノ心境ハ變ツタノデアアルガ一旦假差押決定ヲシテ仕舞ツテ居ルノデ右ノ異議事件ヲ其儘五ヶ月程放ツテ置イタ爲農民組合ノ幹部カラ控訴院ニ捻込ンデ行キ控訴院ノ方カラ私ノ方ニ注意ガアツテ初メテ此事ヲ知り私カラ當事者ニ話シテ圓滿ニ解決シタコトガアル。問題ハ調停ノ申立アル事件ニ關シ之ヲ知ラズシテ假差押決定ヲ爲シ其爲假差押異議アリタル場合如何ニ取扱フベキカト云フコトデアルト思フ。

和歌山地 松本判事 假差押處分ガ小作調停法第九條ニ所謂訴訟中ニ包含スルトシテ中止ノ取扱ヲ爲スノハ假差押ノ申請アリタル裁判所ニ對シ當事者ヨリ調停申立中ニ係ルコトノ證明書ヲ提出セラレタ以後ノコトデアツテ之ガ提出セラレナイ以前ハ假差押申請アリタル裁判所ニハ調停ノ事實ハ判明シテ居ラナイカラ中止ノ取扱ハ出來ナイト思フ。

議長 本問ニ對スル本省ノ御意見ハ明日伺フコト、シ本日ハ之ニテ閉會シ明日午前九時ヨリ開會致シマス。

午後五時三十分閉會

第二日目 十月二日午前九時十五分開會

議長 本日ハ先ヅ昨日ノ第二十三問ニ對スル本省ノ御意見ヲ伺フコトニ致シマス。

奥野司法書記官 本問ハ次ノ二十五問トモ關係ガアル様ダカラ一括シテ意見ヲ申述べ度イト思ヒマスカ。

議長 ソレデハ第二十五問モ此際協議ニ付スルコトニ致シマス。

問題 二十五、小作調停申立ニヨリ上訴期間ヲ中斷シ得ルヤ。(德島縣提出ノ四)

奥野司法書記官 小作調停法第九條ニヨルト調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟ガ繫屬スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止スルト云フコトニナツ居ルガ此中止ハ當然中止カ或ハ中止スルト云フ決定ニ基キ中止スルノカ其點ニ付テハ立法ノ當時及以後ノ解釋ニヨリ當然中止ダト考ヘテ居タノデアアル。處ガ最近大審院判決ニヨルト當然デハナク決定ガアツテ中止スルト云フ判決ガアツタ。此點ニ付テハ將來何レカニ解釋ガ一定サレルダラウト思フ。無論金錢債務調停ノ如ク中止スルト否ト裁判所ノ裁量ニ依ルノデハナク小作調停ノ方ハ申立ガアレバ必ズ中止ノ決定ヲシナケレバナラナイ。一般ニ裁判所ノ取扱ハ從來當然中止ノ様ニ思フ。

次ニ本案前ノ假差押假處分ト云フ様ナ保全手續ニ付テモ議論ノ餘地ハアルガ昭和六年六月三十日大審院ハ中止ニナルト云フ決定ヲシテ居ル。其處デ當然中止ト云フ說ヲ採レバ保全手續モ亦當然中止トナル譯デアアル。從ツテ調停申立受理後ノ保全手續ハ爲スベキモノデハナイ。然シ此様ニ中止ニナツタ事件ニ付中止中ニ爲サレタ判決ヲ決定ハ無効カ或ハ有效カノ問題ガ生ズルガ私ハ當然無効ノモノデハナク法律ニ違背シタモノデアアルカラ手續違背ヲ攻撃スル方法ニヨリ取消サルベキモノデソレ迄ハ有效ダト思フ。二十三問ハ後者ノ様ニ見ラレルカラ其決定ハ廢棄サルベキ違法ノモノダト思フ。

ソレカラ調停申立前ニ假差押假處分決定ヲ判決ガアリ其執行前ニ調停ノ申立ガアリタル場合モ九條ノ中ニ這入ルカラ申立人

ハ調停繫屬中ナル旨ノ證明書ヲ取り之ヲ執達吏ニ持ツテ行ケバ執行モ當然中止ニナルト思フ。
 二十五問ニ付テハ當然中止説ヲ採レバ上訴期間モ進行シナイコトニナルガ之ニ反シ大審院ノ判決ニ從ヘバ中止決定ナキ場合
 ハ上訴期間ハ進行スルト思フ。尙昭和十一年六月二十四日法曹會ハ當然中止デハナク決定ナキ限り中止シナイト云フ風ナ決
 議ヲシテ居ル。最後ニ小作調停法第九條ニ關スル大審院判例ヲ判例集ニ登載セシムルコトハ司法省トシテハ關與出來ナイ。
 德島縣佐々木小作官 二十三問ニ付テハ只今ノ御説明ニヨリ了承ス。二十五問ニ付テハ德島ノ取扱トシテハ判決言渡後調停ノ
 申立ガアツテモ上訴期間ハ進行スルトノ見解ナル爲先ヅ上訴ヲシテ置イテカラ調停申立ヲセネバナラヌノデアルガソレデハ
 上訴申立費用ガ要ルノデ貧乏人ハ一寸困ル。何デモ松山地方裁判所管内ノ各區裁判所ニ於ケル取扱振リヲ聞クニ大審院判決
 トハ反對デ上訴期間中ニ調停ノ申立ガアレバ當然中止スルモノトシテ取扱ノテ居ル様デアル。從ツテ若シ調停ガ不調トカ取
 下ニナツタラ其上ニ上訴スルノデアル。斯様ニ裁判所ニ依ツテ取扱ヲ異ニセラレテハ困ルカラ全國同一ノ取扱ニシテ貫ヒ度
 イト思フ。

議長 從來裁判所ニ於テハ法律ノ解釋如何ニヨリ其取扱ヲ異ニシタ處モアツタデシヨウカ書記官ノ御説明モアリ將來ハ統一ヲ
 見ルモノト思フ。本問ハ此程度ニ止メ第二十四問ニ移リマス。

問題 二十四、小作調停法第三十六條ニヨリ委員會ニ於テ調停條項ヲ定メ其正本ヲ送達セシ場合地主側ヨリ異議ノ申立アリ
 不調トナリシ事件ノ訴訟ニ移リシ場合小作人極貧ニシテ應訴力ナキ爲小作人ヨリ町村長ノ證明ヲ付シ訴訟救助ニヨリ
 裁判所ニ救助申請ヲナシタル時ハ裁判所ハ努メテ之ヲ容ル、コト如何。(德島縣提出ノ三)

德縣佐々木小作官 德島縣ニ於テハ小作調停法第三十六條ヲ適用シタ事例ハ相當アルガ共ハ、九割迄ハ異議ノ申立ニヨリ不調
 ニ終ツテ居ルノデアル。此三十六條ヲ適用スル迄ニハ數回調停ヲ重ネ相當努力シタガ成立シナイ其處デ萬止ムヲ得ズ其適用
 トナルノデスカラ之ガ訴訟ニ移ツタ場合極貧デ到底應訴ノ出來ナイ小作人モ相當ニアル。斯様ナ者ニ對シテハ社會秩序維持
 ノ見地カラ又一面調停ノ事績ヲ舉ゲル上カラ可及的訴訟ノ救助ヲ與ヘ以テ調停ノ權威保持ニ資セラレ度イト考ヘル。

奈良地 青木判事 提案者ノ説明ガアツタケレドモ裁判所トシテハ民事訴訟法第一百八條但書ニヨリ御希望ニ副ヒ難キ場合ガ
 多イト思フ。

議長 第二十六問ニ移リマス。

問題 二十六、調停條項不履行ニ基キ強制執行ヲ爲サントスルトキ其小作權ガ第三者ニ讓渡セラレ居ル場合ノ處理方針承リタ
 シ。(香川縣提出ノ四)

香川縣山尾小作官 本縣ニ於テハ別ニ本問ニ對スル事例ガアルノデハナイガ甘土ノ慣行ガアルノデ調停調書ニ基キ條項不履行
 ノ小作人ニ對シ強制執行ヲ爲サントシタルニ之ヨリ先(調停成立後)既ニ無斷デ其甘土權ガ第三者ニ讓渡サレタ場合其承繼人
 ニ對シ執行スルコトガ出來ルカ恚ウカラ伺ヒ度イノデアル。

高松地 紫藤判事 甘土權ノ慣行ガ此問題ニ如何ナル影響ガアルカ特ニ考慮シテ居ラナイカラ直チニ御答ハ出來ナイカ一般論
 トシテ調停調書ハ裁判上ノ和解調書ト同様確定判決ノ效力ガアルコトニナツテ居ルカラ民事訴訟法第二百一條ニ徴シ調停成
 立後ノ承繼人又ハ其者ノ爲請求ノ目的物ヲ所持スル者ニ對シテモ効力ヲ有シ此場合同法第四百九十七條ノ二ニ基キ執行力モ
 アルコト、ナリ之ガ執行文附與ニ付テハ同法第五百十九條第五百二十條ニヨリ其承繼ヲ證明セラレトキニ裁判長ノ命令ヲ
 得テ之ヲ爲サルベキモノト解スル。

大阪地 月山判事 高松ト同意見デアル。然シ甘土權ノ性質ハドンナモノカ判ラヌガ小作人ノ任意ニ轉貸ガ出來ル慣行ガアレ
 バ執行文附與ハ出來ナイ様ニ思フ。

高松地 紫藤判事 香川縣ニハ甘土ノ慣行ハアルケレドモ之ヲ民法ニ所謂慣習ト云フ程度ニナツテ居ルカ否カ疑問デアリ小作
 地明渡請求訴訟ニ於テ甘土料ニ關スル抗辯ハ屢々出ルカ判決ノ上ニ此抗辯ヲ容レタ實例ハナイ様ニ思フ。尤モ調停ノ上ニ於
 テハ之ヲ認メルコトモアルノデ今後或ハ判決ノ上ニ於テモ此慣習ノ存在ヲ是認シナケレバナラヌカトモ考ヘテ居ル。

大阪府山戸小作官 此際第二十八問モ一緒ニ協議ヲ願フ方都合ガ宜イノデスガ。

議長 ソレデハ同時ニ協議ニ付スルコトニ致シマス。

問題 二十八、調停條項ノ執行力ノ存続期間如何。(大阪府提出ノ二)

大阪府山戸小作官 小作權ガ第三者ニ讓渡サレタル場合執行ガ出來ルト云フコトダカ、左様スルト二十年モ三十年モ即チ地主ニ無斷デ讓渡シタ場合永久無限ニ執行力ガアルモノカ怎ウカ疑問ガ生ズル。此點ニ付司法省ノ御意見ヲ伺度イト思フ。

高松地 紫藤判事 調停調書ノ執行力ノ問題デアアルカ調停條項自體ニ制限デモナイ限リ又客觀的社會事情ノ變改ナキ限リ永久ニ効力ガアルモノト思フ。

德島縣佐々木小地官 先年本會ノ如キ協議會ニ於テ調停條項ニ期間ヲ五ケ年トシ其滿了後六ケ月以内ニ双方異議ノナイトキハ契約更新ストアル場合ハ此契約ハ五十年デモ百年デモ異議ナキ限リ存続スルカト云フコトガ問題トナリ其席ニ臨席サレテ居タ小堀司法書記官ハ此契約ハ無限ニハ更新シナイト云フ御話デアツタ。

高松判 紫藤判事 先程永久ニ執行力ガアルト申シタカ勿論債務名義ノ實體タル權利關係ガ存続スルコトガ前提トナルカラ何等カノ理由ニヨリ其權利ノ消滅スル場合調書ノ執行力モナクナルハ勿論ノコトデアアル。

奥野司法書記官 永久無限ダト云フコトニナルト其處ニ誤解ガ生シハシナイカト思フ。要ハ調停ノ趣旨如何ニヨルベキデ假ヘバ期間ガ終了スルト共ニ賃料等小作契約ノ内容ニ付新ニ協定ヲシテ更新スル場合小作契約自體ガ前後同一デナイカラ前ノ調書ノ執行力ハナクナルケレドモ賃貸借契約ノ内容ニ變更ナク只期間丈ヲ更新シテ前ノ契約ヲ繼續セシメ様ト云フ意思デ調停ガ出來タ場合ハ更新ニ依ツテモ前ノ調停調書ノ執行力ハ存続スルノデハナイカト思ハレルカ永久無限ト云フコトハ怎ウカト思フ。

大阪府山戸小作官 小堀書記官ノ云ハレタコトハ明確ハ明確ニナツテ居ルノデアアルガ、ソレハ更新後モ裁判所ノ和解調書ト同ジク條項ハ更新シテモ執行ハ五年限リト云フノデス。ソウスルト期間ノ定メナイ契約ノ場合其執行力ハ何時迄存続スルガ疑問トナル。

奥野司法書記官 更新後ノ執行力ナリ調停ノ效力ニ付テハ議論ノアルトコロデス。即チ更新トハ契約ノ更新ト見ルカ期間ノ更新ト見ルガマソレデ期間ノ更新ト云フコトニナレバ前ノ債務名義ノ效力ハ存続スルト思フ。

京都地 村上判事 私ハ更新ノ文字ヲ使フ場合ハアルガソレハ同一社會情勢ノ下ニ在ルコトヲ前提トシテ居ルノデアツテ其後契約ノ内容ガ社會情勢ノ變化ニヨリ不適當トナツタ場合ハ更新スルコトヲ調書モ之ト共ニ當然執行力ヲ失フモノト思フ。

大阪地 月山判事 私ハ理論ノ上デハ存続期間ハ別段制限ノナイモノト思フ。

奈良地 青木判事 契約ノ更新カ期間ノ更新カハ期間滿了後明渡ヲ爲ス場合ニ起ル問題デアツテ斯様ナ場合ハ普通地主ノ方カラ期間滿了前豫メ其意思表示スルコトニナルカラ此處デ深ク議論スル實益ハナイ様ニ思フ。

議長 第二十六問及第二十八問ハ此程度ニシテ第二十七問ニ移リマス。

問題 二十七、一回ニテモ小作米ノ支拂ヲ怠リタルトキハ即時ニ土地明渡ヲ爲ス旨又ハ殘額ニ付即時ニ履行期到來スル旨ノ調停條項アル場合ニ於ケル執行文ノ附與ニ付テハ民事訴訟法第五百十八條第二項ニ依リ債權者ヲシテ證明セシムル取扱振ナリヤ實際ノ取扱振リ承リタシ。昭和七年七月民事局長回答參照(和歌山地方裁判所提出ノ二)

和歌山地 松本判事 本問ニ付テハ別ニ説明申ゲル迄モナイノデアアルガ、唯此證明ハ執行文附與ノ條件ナリト云フ説ト現實執行スル場合ノ條件ナリト云フ兩説ガアル様デス。本省ハ後者ノ説ヲ採ツテ居ル様ニ思フ。元ハ證明サセテ居タガ現在ハ民事局長回答ノ取扱振ヲ居ラル、コト、思フガ尙念ノ爲各廳ノ御取扱振リヲ伺度イ。

高松地 中口判事 高松カラ本省へ問合ヲ爲シタルニ對シ昭和七年九月民事局長ノ回答ガアツタ事案ハ和解調書ニ付テマアツタト思フ。以前ハ矢張り證明書ヲ取ツテ居タガ本省ノ回答後ハ證明書ハ取ツテ居ラナイ。

大阪地 月山判事 調停調書ニ對スル執行文附與ハ殆ンド稀デ調停法始ツテ以來四、五件位アツタ様デス。大阪デハ證明書ヲ要求シテハ居ラヌ併シ申請人ノ方カラ添附シテ來ルコトモアル。附ケテ來ナカツタ場合要求スルカ怎ウカニ付先般協議シタ結果必要ナシト云フコトデアツタ。

神戸地 花淵判事 神戸ニモ餘リ實例ハナイガ證明書ハ出セナイデ附與シテ居ルト思フ。

京都地 村上判事 小作米ノ不履行ノ原因トシタモノニハ證明書ヲ取ツテ居ラヌガ明渡ノ場合ハ證明書ヲ取ツテ居ル。

奈良地 青判木事 實例ハナイガ私ハ要ラナイト云フ見解ヲ持ツテ居ル。

尤モ辯護士ノ手ニヨリ申請ノ場合ハ大抵疏明シテ居ル様デス。

徳島地 黒瀬判事 私ノ方デハ證明書ヲ出サセテ居ル様ニ思フ。

高知地 龜谷判事 不履行ノ場合ハ一週間ヲ下ラザル期間ヲ定メテ催告スルト云フ調停條項ニ對スル執行文附與ニ付證明書ヲ

出サセテ事例ガアルガ私ハ明渡ノ期限ガ當然來ル場合ヤ分割拂ノ如キ場合ハ證明ハ必要ガナク、然ラザル場合ハ必要アリト

思フ。要スルニ調停條項ヲ検討シテ個々ノ場合ニ應ジテ適當ニ處理シテ行ケバ宜イト思ツテ居ル。

奥野司法書記官 條項中不履行ノ場合ハ何日ト期間ヲ定メテ催告シ尙應ゼザルトキハ云々ト云フガ如キ催告ガ條件ニナツテ居

ル場合ハ此催告ハ民事訴訟法第五百十八條第二項ノ所謂條件ニ該當スルト思フ。

神戸ノ公證人カラノ問合ニ對スル民事局長回答(昭和三年十一月三日)ハ其當時催告ノ證明ハ不履行ノ證明ニモナラヌシ又

履行ト云フガ如キ消極的ナコトヲ債權者ニ證明サセルコトハ妥當デナイト云フ論ガ多分ニアリ結局證明サセナイデ附與シテ

宜イト云フコトニナツタト私ハ聞イテ居ル。

議長 書記官ノ御説明ニテ本問ハ解決シマシタカラ進ンデ昨日保留シテ置イタ第一問ヲ此際協議ニ付シマス。

問題 一、小作調停法第七條ノ取扱如何。(大阪府提出ノ一)

大阪府山戸小作官 町村長ニ對シ口頭ヲ以テ調停ノ申立ヲ爲シ該町村長其調書ヲ錄取スル場合其町村長ハ調書作成ニ付手数料

ヲ徵收シテ宜イカ怎ウカ無論徵收ハ出來ナイト云フ根據モナイガ徵收シテモ差支ナイカ怎ウカ同度イ。

高松地 山下判事 手数料徵收ノ可否ニ付テハ研究ヲ要スルモノト思フガ高松管内デハ手数料ヲ取ツテ居ラナイ。尙當廳管内

ニ於テ口頭申立ニヨリ之ヲ錄取シテ調書ヲ作成シタ件數ハ裁判所書記ノ作成シタ分昭和十年ニ一件、同十一年ニ四件、町村

長ガ作成シタ分昭和十年ニ一件、同十一年ニ五件アツタ。

大阪地月山判事、奈良地青木判事、高知龜谷判事 裁判所書記並ニ町村長ガ申立調書ヲ作成シタ事案ハナイ。

神戸地 花淵判事 神戸デハ町村長ガ作成シタモノハナイガ調停ノ際其事件ニ附隨シテ更ニ口頭ヲ以テ申立タ場合便宜裁判所

書記ニ於テ調書ヲ作ツタモノハアル。

大阪府山戸小作官 大阪ハ土地柄町村長ハ比較的小作問題ニハ冷淡デ口頭申立ニヨリ調書ヲ作成シテ貰ツタ場合ニハ手数料ヲ

取ツテハ宜イデハナイカト云フコトヲ聞クコトガアル。而シテ手数料ヲ取ツテ宜イモノナレバ取ラセテ事件ヲ受理シ早ク處

理セシメルコトモ止ムヲ得ナイト思フガ私トシテハ手数料ヲ取ルコトハ好マシクナイト考ヘテ居ル。

徳島縣佐々木小作官 徳島デハ私ガ赴任シタ當時ハ大分町村長經山ノ申立ガアツタガ最近ハ減ツテ居ル。小作調停ニ付テハ縣

廳ニ申立要式ヲ備ヘテ置キ葉書等デ請求次第必要ナ者ニ送附シテ遣ルコト、シ調停申立ヲ簡易ニシテ遣フルノモ一方法ダト

思フ。

奥野司法書記官 口頭ニ依ル小作調停申立ノ場合調書作成ニ付町村長ニ於テ手数料ヲ取ルベキモノデナイト思フ。

議長 ソレデハ第二十九間ニ移リマス。

○小作爭議ノ防止調停法ノ活用ニ關スルモノ

問題 二十九、時局及逐年小作事件ノ増加ニ鑑ミ我小作調停法ヲシテ一層活用スシムベキ方策如何。(大阪地方裁判所提出

ノ一)

大阪地 月山判事 此問題ニ付テハ私ノ方トシテモ別ニ良イ方策ハナイノデ皆様ヤ本省ノ方々ノ御指導ヲ乞フ積リデスカ大體

左ノ諸點。

一、不出頭ノ當事者ニ對スル制裁、之ハ稀デアルケレドモ一ツ斷行シテハ怎ウカ。

二、小作法案ガ急速ニ立法ニナレバ誠ニ結構ダガ早急ニ出來ナイトスレバ調停條項中ニ小作權ヲ確認出來ル様ニシテハ怎ウ

カ、之ニ對シテハ

(イ) 當該小作人ニ先取買受權ヲ附與スルコト。

(ロ) 既ニ調停成立シテ居ル小作權ノ承繼人ハ當然其都度地主ノ承認ヲ求ムル手數ヲ要セズシテ小作ヲ繼續出來ル様ニス

ルコト

(ハ) 右(イ)(ロ)カ不能ノ場合ニハ小作人ニ支給スベキ作離料類ヲ定メテ置クコト。

三、訴訟繫屬中ノ事件ニ付テハ受訴裁判所ハ職權ヲ以テ調停ニ付スルコトヲ得ルモノトシテハ怎ウカ。

四、申立受理後訴訟ノ中止ハ受訴裁判所ノ裁量ニ依ルコトニシテハ怎ウカ。

ト思フガ一ツ各位ノ御意見ヲ承リ度イ。

田邊農林省小作官

一、不出頭ノ當事者ニ對スル制裁ハ寧ロヤラナイ方ヲ希望スル。尤モ惡定ノ場合ハ別問題デ斯様ナ場合制裁ヲ加ヘタ事例ハ數件アル。

一、小作法ガ必要ナコトハ申ス迄モナイノデ私達トシテハソレヲ立法シ度イ考カラ盡力シテ居ルガ、小作法トシテ出ルカ或ハ農地關係ノ法律トシテ出ルカ其邊ノコトハ只今明言出來ヌ。兎ニ角出來ル丈ケノ盡力デ以テ進ンデ居ル。

一、調停條項中ニ小作人ノ權利ヲ確實ニシテ置クコト云フ様ナ適切ナ條項ハ立法ガ出來ル出來ヌニ關係ナク事情ニヨリ事實ニ即シタ條項ヲ作り明確ニシテ置クコトハ誠ニ結構ダト思フ。

一、調停法改正ニ付テハ司法省ニ關スル事デアアルガ職權移送ハ私個人トシテハ宜イコトダト思フ。

奥野司法書記官 結局調停法ノ趣旨ヲヨリ一般ニ徹底セシムルコトガ緊要デ此點ニ付テハ小作官ナリ裁判所ニ於テ御盡力ヲ願フ外ナイ。立法問題ニ付テハ目下ノ處成案ハアリマセヌ。

議長 第三十問ニ移リマス。

問題 三十、小作爭議未發生地方ニ於ケル不良小作條件ノ改善方策如何。(京都府提出ノ一)

京都府内藤小作官 最近警察方面ニ於テ小作爭議未防止委員會ト云フモノヲ作り爭議未發生地方ニ於ケル小作條件ノ惡イモノハ爭議ノ發生ニ先立チ改善方法ヲ講ジテ居ルト云フ處ガアル様ダガ各地ノ狀況如何。

兵庫縣窪田小作官 此問題ハ本縣提出ノ問題ト同様改善スルコトハ必要ダガ、ソレヲ目標ニシテハ不可ヌカラ現實ノ問題トシテ私ノ方ハ協調組合ヲ設ケテ居ルガ理想トスル小作條件ノ改善ハ爭議未發生地方ニ於テハ到底出來ルモノデハナイト思フ。議長 次テ第三十一問ニ移リマス。

問題 三十一、地主小作協調組合設置獎勵上注意スベキ事項承リ度シ。(兵庫縣提出ノ二)

兵庫縣窪田小作官 本縣デハ協調組合ノ設置ヲ昨年カラ縣費ノ補助ヲ得テヤツテ居ルガ其獎勵ニ付テハ無暗ニ宣傳シテ作ラスト云フ様ナ考方デハナク組合ヲ作ル希望ガアレバ作レト云フ主義デ進ンデ居ルノデアアルカ協調組合トシテ爲スベキ仕事ハ先ヅ第一ニ小作料ノコトデ殊ニ凶作ノ場合其小作料ノ減免方法ヲ如何ニ協定スルカト云フコトガ最も主要ナリトノ見地カラ私ノ方デハ凶作ノ場合ノ檢見ヲ部落單位デヤルト云フ考ヘデ以テ組合ヲ設ケテ居ル組合ヲシテ小作條件ヲ改善セシムルト云フコトハ一寸難シイノデ恐ラクソレハ出來ナイダラウト思フ。其處デ此席デハ組合ノ全般的又ハ部落的ニ爲スベキ事柄ヲ御教示願ヒ度イ。尙ソレニ附隨シテ凶作ノ場合ノ檢見ヲ從來他ノ機關デ替ツテ居ツタノヲ協調組合ニヤラス様ニスルコト、組合ノ規約ヲ權威アラシムル爲メ之ヲ裁判所デ作ツテ賞ヒ度イト思フ。

田邊農林省小作官 協調組合ニ付テノ批判ハ種々論議サレテ居リ從ツテ此席上ニ於テ其可否ヲ速斷スルコトハ難イガ最近ノ情勢ニ依ルト或ル程度迄地主小作人ノ意思ガ融合シテ來タト思ハル、點ガナイデモナイ。從ツテ組合ヲ作ルト云フコトハ洵ニ時機ニ適シタモノト思ハレル。要ハ設置ニ當リ

一、縣當局即チ小作官ガ確信ヲ以テ當ルコト。

一、設置ノ時期ハ爭議ガアツテ非常ニ困ツタト云フ様ナ場合ヲ利用スルコト。

一、組合ノ幹部ニハ爭議地ノ中心人物ヲ撰ブコト。
一、地主小作人ノ勢力ノ權衡ヲ圖ルコト。
等ガ肝要ダト思フ。

議長 第三十二問ニ移リマス。

問題 三十二、小作爭議未然防止調停事件ヲ含ムノ狀況如何。(和歌山縣提出ノ三)

和歌山縣高木小作官 本問中(調停事件ヲ含ム)トアルヲ削除致シ度イト思フカラ左様御了知ヲ願フ。本縣ニ於テハ警察當局ニ於テ小作爭議未然防止委員會ヲ設ケ爭議ヲ防止スルト云フ方法ガ講ゼラレテ居ルガ各地ニ於テハ如何ナル對策ガアルカ承リ度イ。

京都府内藤小作官 京都府特高課デハ左様ナ會ハ設ケテ居ラナイ。又爭議ノ防止ニ付活動シテ居ル様ナコトモ聞知シナイ。

大阪府山戸小作官 大阪ニ於テモ京都同様設ケテ居ナイ。又計畫モナイ様デアル。

兵庫縣窪田小作官 協調組合ノ設置モ未然防止ニナルドラウト思フ。農林省ノ方デ何か農地法トシテ之ニ關スル立法ガ出來レバ宜イト思フ。本縣ニ於テハ警察方面デ消防組ノ様ナモノヲ加ヘテ作ツタラト云フ風ナ話ガアルノデナイカト想像スル。然シ何モ聞イテ居ラナイ。モ少シ時期ガ經テバ目鼻ガ付クドラウト思ツテ居ル。

香川縣山尾小作官 昨年ノ夏特高課ノ方デ各地テ地主ヲ集メ懇談會ヲ開イタガ之ハ小作料値上ノ情勢ニアルノデ成ルベクソレヲサセヌノヲ目的トシタノデス。

徳島縣佐々木小作官 本縣デハ從來ノ協調組合ヲ爭議防止委員會ト名稱變更シタモノガ二ツアル。

議長 第三十三問ニ移リマス。

問題 第三十三、協調組合ニテ團體協約的ニ小作條件ヲ決定セル後一部當事者ヨリ之ニ反スル小作調停ノ申立アリタル場合之ヲ如何ニ處理スルヤ。(香川縣提出ノ三)

香川縣山尾小作官 前任地ノ福岡デモ本問ノ様ナ事例ガアリ又本縣ニモアツタガ調停上誠ニ困ル問題デ始メハ協調組合自體ヲシテ解決サセルコトニシタガ解決出來ズ再調停ノ申立アツタガ一、二回調停ヲシテ何レモ事件ヲ取下ゲサセ訴訟事件トナツテキル。

徳島地黒瀬判事 實例トシテ本縣ニハ振農會ガアルガ一昨年ノ風水害ノ際小作料ノ減額ニ付實際ハ二割モ三割モ被害ガアツタノニ振農會ハ一割ノ被害シカ認メズ農民組合ハソレヲ不服トシテ調停ノ申立ヲ爲シマシタ。要スルニ公正妥當デナイモノヲ小作官ニ於テ押付ケ調停ニ出セナイト云フコトハ面白クナイト思フ。本問ノ様ナ場合裁判所トシテハ獨自ノ立場ニ於テ調停ヲシテ貰ルノガ相當ダト思フ。又私達トシテモソウ云フ考ヘデ遺ツテ居ル。

大阪府山戸小作官 本問ノ様ナ場合公正妥當ニ解決ガ出來ルカ怎ウカ大體ノ目安ガ樹ツ迄ハ遺ラナイ。ソレガ爲メニハ小作官カ出張シ種々實情ヲ調査シ其上デ全般的ニ遺ツテ居ル。

兵庫縣窪田小作官 斯ウ云フ様ナ場合反對ノ連中ヲ組合カラ除外スル。ソレガ出來ナケレバ無意味ナ組合デアルカラ捨テ、置ク。

議長 ソレデハ第三十四問ニ移リマス。

○調停委員ニ關スルモノ

問題 三十四、小作調停委員協議會開催ノ可否。本年五月縣下ノ小作調停委員協議會ヲ開催セリ收米各郡毎ニ研究會ヲ開催セントス其ノ可否ニ付他府縣ノ事情承リタシ。(香川縣提出ノ二)

香川縣山尾小作官 本縣ニ於テハ小作料値上ノ問題ガ起リツ、アルノデアルガ此解決方法ニ付テハ特高課トモ協力シテヤツテル次第デス。本縣デ調停委員ノ協議會ヲ開イタノハ。此情勢ヲ防止スル意味モアツタ譯デ、會ハ委員ノ中ノ有志ガ發起人ト云フコトニナリ知事、裁判所長ノ御臨席ヲ願ツテ開キマシタ。

大阪地 月山判事 大阪デハ月一回金調、商事、借地借家ノ調停委員ノ幹部全部ガ集リ六組ニ分レテ開イテ居ル。其席上小作

調停委員ノ幹部モ出席シ問題ガアレバ話ヲシテ居ルガ此會ノ精神ハ矢張り香川縣ニ似通ツテ居ルモノト思フ。
和歌山縣高木小作官 一回モ開イタコトハナイ。

奈良縣田中小作官補 大正十五年ニ一回開イタコトガアリ好成績デシタ。ソレカラ昨年ト一昨年各區裁判所毎ニ開イタ其際ハ委員ノ約四割ガ出席シタ様デス。會費ハ一圓デ委員持デシタ。

神戸地 花淵判事 全調商事等ノ委員ノ中カラ二十名ヲ選ビ毎月第二土曜日ニ會議ヲ開イテ居ルガソレニハ小作調停委員ハ加ツテ居ナイ。

議長 第三十五問ニ移リマス。

問題 三十五、小作調停委員ノ法外活動狀況如何。(奈良地方裁判所提出ノ二)

奈良縣田中小作官補 委員ノ法外調停ニ付テハ消極説ト積極説ガアル様ダガ何レヲ可トスルカ其點ヲ承リ度イト思フ。

奈良地 青木判事 小作調停委員ガ委員會ヲ離レテ調停ヲヤルコトハイケナイト思フ。

議長 次ノ第三十六問ニ移リマス。

問題 三十六、調停委員ノ功績ノ著例及其選任期間ヲ承リタシ。(高松地方裁判所提出ノ二)

高松地 中口判事 既ニ表彰サレタ委員ノ功績トカ或ハ又表彰ニ値スル委員ノ功績ノ程度標準等ソレカラ各裁判所ニ於ケル小作調停委員ノ選任期間此選任期間ニ付テハ金調等ノ委員ハ毎年選任ヲ要スル規定ニナツテ居ルガ小作ノ委員ハ其毎年ト云フ文字ガナイノデ選任ニ際シ任期ヲ二年トカ三年トカニシテ居ル所ガアルト云フ様ニ聞イテ居ルノデ其點ヲ承ツテ置キ度イト思フ。

大阪地 月山判事 大阪デハ調停法實施以來表彰サレタ委員ハ四名アツタ様ニ思フガ最近五、六年間ハ一名モナイ。標準ト云フ様ナモノハ一寸判り兼ネル所長ヨリ上スレバ本省ノ方デハ取扱事件其他ヲ調査シテ決定サレルモノト思フ。
小作調停委員ノ選任ハ矢張り一年毎ニヤツテ居ル様ニ思フ。

京都地 村上判事 委員ノ選任ニ付テハ大阪同様毎年選任シテ居ルト思フ。

徳島縣佐々木小作官 徳島デハ今迄ニ表彰サレタ委員ハ四名アル。皆相當大キナ事件ノ調停ヲシタ者計リデス。

奥野司法書記官 民事局トシテハ可成多ク表彰者ヲ出シ度イト心懸ケテ居ルノデアルガ近頃金調ノ方ノ委員モ殖ヘテ居ルノデ詮衡範圍ガ廣クナリ仲々調査ガ困難デス。ソレカラ標準ト云フ様ナモノハ別ニアリマセヌ。取扱件數ガ何件トカ其他各方面ヨリ觀テ表彰事情ガ上申者カラ詳シク申出テアルノヲ全國的ニ並ベテ見テ慎重公平ニ決メルノデアリマス。

議長 第三十七問ニ移リマス。

○小作法案ニ關スルモノ

問題 三十七、所轄省ニ小作ニ關スル單行法ヲナルベク早ク制定實施スル様建議シテハ如何。(徳島地方裁判所提出ノ三)

徳島地 黒瀬判事 本問ハ建議トシテ此會デ決定シテ戴ク様ナ趣旨ニ見ヘルガ、農林省小作官カラ先刻小作法ノ立法ニ關シ御話ガアツタノデ此問題ニ付テハ一應意見ヲ申述ベソレヲ聞イテ戴クト云フ程度ニ止メテ置キ度イト思フ。ソレハ實際局ニ當ツテ居ル者デナケレバ判ラヌノデアルガ小作ニ關スル立法ガナイ爲メ調停ニ當リ離作料ヲ支拂ヘト云フ様ナ條項ヲ作ル場合當事者カラ離作料ト云フノハ一體如何ナル法律ニ因ルノカト云フ様ナ質問ガ出ル。其處デ之ハ法律ニハナイ慣行ニ因ルノダト云フトソナ慣行ニ因ラレテハ困ルト云フ者ガ出テ來ル。其外貸借契約ト小作契約トヲ明確ニスル上ニ於テモ右單行法ハ是非共必要デアアル。

議長 第三十八問ニ移リマス。

問題 三十八、小作法制定ニ關スル本省ノ方針如何。(徳島縣提出ノ五)

徳島縣佐々木小作官 本問ニ付テハ先程農林省小作官カラ詳シク御話ガアリ良ク判ツタノデ撤回ス。
議長 第三十九問ニ移リマス。

○其他

問題 三十九、全國控訴院管内小作調停事務協議會ニ於テ今日迄協議セラレタル會議録ヲ農林省ニ於テ重複セザル様蒐集シ
司法省ヨリ全國地方區裁判所ニ(地方裁判所ニハ二部)送付シ小作調停判事ノ精讀ニヨリ小作調停事件處理上ノ參考ニ
資セシムルコト如何。(德島縣提出ノ二)

德島縣佐々木小作官 會議録ガ主任判事並ニ小作官ニトリ調停事件處理上如何ニ重要資料トナルカハ別ニ説明スル迄モアリマ
セヌ。農林省司法省ニ於テモ之ヲ諒トセラレ可然御取計ヲ願ヒ度イト思フ。

議長 第四十問ニ移リマス。

問題 四十、輓近ニ於ケル地主、小作人ノ團體運動ノ狀勢承リタシ。(高松地方裁判所提出ノ六)

議長 本問ハ各府縣カラ配布ヲ受ケタ印刷物ニ依リ承ツタコトニ致シマス。

香川縣山尾小作官 之デ協議問題モ濟ミマシタカラ最後ニ次回開催地ヲ決定シテ置キ度イト思フ。順序トシテハ奈良縣ト云フ

コトニナツテ居リマスガ。

奈良縣青山小作官 本縣ノ次ニ何處デスカ。

香川縣山尾小作官 德島縣ダト思フ。

奈良縣青山小作官 一ツ繰合シテ德島縣ニ御願ヒ出來マセヌカ。

德島縣佐々木小作官 歸任ノ上司ニ相談シテ見ナケレバ御引受出來ルカ怎ウカ判ラナイ。

奈良縣青山小作官 次回ハ奈良縣デ開催スルコトニシテ置キマスガ歸ツテカラ一應相談シテ期日共ノ他ニ付テハ後日書面ヲ以

テ御通知スルコトニ致シマス。

議長 問題全部ヲ議了致シマシタ之ヲ以テ本會ノ議事ヲ終ルコトニ致シマス。(午後一時議事終了)

大野高松地方裁判所長 昨今兩日ハ折悪ク天候不良デアリマシタニ拘ラズ各位ハイトモ朗ニ熱心嚴肅裡ニ御研究御討議ヲ御續

ケ下サレ且ツ豊富ナル御經驗ヤ貴重ナル御意見ヲ拜聽スルコトヲ得將來小作調停事務上ニ多大ノ效果ヲ齎シ之ガ運用上期シ

テ待ツベキモノアリト信ジ慶祝欣快ノ至リニ堪ヘマセヌ。茲ニ主催地トシテ深甚ナル謝意ヲ表シマス。

會議中奥野書記官、田邊小作官ニハ長時間終始御臨席賜リ洵ニ御懇切ナル御指導ト御教示ニ預リ會員一同啓蒙スルココロ實

ニ多ク茲ニ謹テ厚ク御禮申上ゲマス。

會員各位ニ於カセラレテハ御歸任後ハ本會ニ於テ得ラレマシタ處ヲ十分活用セラレ調停事務ノ成績益良好ニ民衆ノ信賴愈高

マリ一段ト國運ノ隆昌ニ寄與セラレンコトヲ祈リマス。一言御挨拶ヲ申述ベ閉會ノ辭ト致シマス。

和歌山地 松本判事 潜越ナガラ私會同員ヲ代表致シマシテ些カ御禮ヲ申述ベ度イト存ジマス。大阪控訴院管内第十三回小作

調停事務協議會モ本日ヲ以テ最モ有意義成功裡ニ終リマシタコトハ御同慶ニ堪ヘナイ次第デ御座キマス。今回ノ開會ニ當リ

マシテハ縣並裁判所御當局ヨリ何カラ何マデ至レリ盡セリノ御配慮ニ預リ實ニ氣持ヨク本會ヲ終ヘ一同ト共ニ深ク感謝致シ

テ居ル次第デ御座キマス。

所長閣下ニハ御多忙中ニモ拘ラズ終始議長ノ任ニ當ラレ議事進行ニ付一方ナラヌ御努力ヲ賜リ尙又奥野司法書記官田邊農林

省小作官ニハ特ニ御臨席下サレ會議中ハ何カト御指導ニ預リマシタコトハ一同ト共ニ厚ク御禮ヲ申上ゲマス。

調停事務ニ付テハ其本義ニ鑑ミ何處迄モ無理ヲセズ當事者ノ相互理解ヲ以テ其建前トシ小作官主任判事ハ相協力事件ノ解決

ニ努メテ居リマスガ將來ハ尙一層本會ニ於テ得タル智識ヲ土産ニ持歸リ一面社會狀勢ニ即シ至誠以テ事ニ當リ十分ノ努力ヲ

續ケ度イト思ヒマス。終リニ臨ミ縣並裁判所當局、本省ノ各位ニ對シ重ねテ深ク謝辭ヲ申述ベマス。

第六 出席者名簿

司 法 省	司 法 書 記 官	奥 野 健 一
同 司 法 屬	安 藤 正 文	

滋 同 奈 同 兵 大 京 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 高 同
賀 良 庫 阪 都
縣 縣 縣 府 府 松 地 方 裁 判 所

地 小 地 小 同 同 地 同 同 同 同 同 同 書 監 同 同 判 同
方 作 方 作 同 同 方 同 同 同 同 同 書 督 同 同 判 同
小 官 小 官 同 同 小 同 同 同 同 同 記 書 同 同 事
作 官 作 官 同 同 作 官 同 同 同 同 同 同 同 同 同 事

廣 田 青 松 笹 山 內 小 村 龜 安 吉 森 角 押 津 神 平 鈴
部 中 山 島 田 戶 藤 野 井 倍 岡 阪 山 田 木
猪 勝 清 嘉 親 昌 德 才 豐 田 欣 武 重
五五 八
郎 隆 一 淳 市 一 義 一 晃 寧 吉 巖 郎 一 平 實 治 之 雄

同 同 高 高 丸 高 高 高 高 高 德 和 大 奈 神 大 京 農
松 松 龜 松 松 松 松 松 島 歌 津 良 戶 阪 都 林
地 地 區 區 區 區 區 島 山 地 地 地 地 地 地 地
方 方 裁 裁 裁 裁 裁 地 山 地 地 地 地 地 地 地
裁 裁 裁 裁 裁 裁 裁 地 地 地 地 地 地 地 地 地
判 判 判 判 判 判 判 地 地 地 地 地 地 地 地 地
所 所 所 所 所 所 所 裁 裁 裁 裁 裁 裁 裁 裁 裁 裁
所 局 所 所 所 所 所 所 判 判 判 判 判 判 判 判 判 省

同 同 判 檢 監 監 部 檢 所 判 部 監 和 監 大 部 判 判 判 農
事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事
事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事 事

谷 紫 小 杉 平 中 山 古 大 龜 黑 松 佐 青 花 月 村 田
藤 田 山 岡 口 下 賀 野 谷 瀬 本 木 淵 山 上 邊
弓 字 春 清 顯 卯 雅 才 惠 良 善 官 敬 育 政 省 勝
五四
雄 吉 雄 一 吉 吉 邦 郎 眼 呼 治 平 清 輔 三 治 悟 正

附

録

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 香 高 同 德 和

歌
川 知 島
山

縣 縣 縣 縣

經濟課小作係 農林主事補 警 屬 小作官補 屬 小作官補 地方農林主事 地方小作官 農業經濟課長 特高課長 警察部長 經濟部長 總務部長 知事 同 小作官補 同 地方小作官

佐 藤 西 松 竹 溝 內 小 山 三 戶 宮 沖 稻 佐 眞 橫 佐 高

木 井 山 谷 村 淵 海 山 尾 好 澤 脇 森 垣 藤 田 山 木 榮
正 政 茂 順 喜 武 盛 參 源 正 孝 健 武 太

夫 好 市 榮 二 八 正 嬌 雄 夫 男 三 一 郎 俊 嗣 兒 吉 郎

附
録

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 香 高 同 德 和

歌
川 知 島
縣 縣 縣 縣

經濟課小作係 農林主事補 警 屬 小 屬 小 地方 地方 農業 特 警 經 總 知 同 小 同 地方
經濟課小作係 農林主事補 部 作 官 作 官 地方農林主事 地方小作官 業經濟課長 高課長 察部長 濟部長 務部長 事 作官補 方小作官

佐 藤 西 松 竹 溝 內 小 山 三 戶 宮 沖 稻 佐 眞 橫 佐 高

木 井 山 谷 村 淵 海 山 尾 好 澤 脇 森 垣 藤 田 山 木 榮
木 井 山 谷 村 淵 海 山 尾 好 澤 脇 森 垣 藤 田 山 木 榮
正 政 茂 順 喜 千 武 盛 參 源 正 孝 健 武 太

夫 好 市 榮 二 八 正 矯 雄 夫 男 三 一 郎 俊 嗣 兒 吉 郎

最近ノ各種調停條項事例

(1) 小作條件確定、耕作繼續ノ場合

- 一、地主ハ小作人ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ同目錄ノ記載ノ小作料ニテ從前通引續小作セシムルコト。
- 二、小外人ハ地主ニ對シ昭和何年度以降ノ小作料ヲ毎年度其翌年一月末日限り合格玄米ヲ以テ地主宅ニ持參納入ノコト。
- 三、小作人ニ於テ前條小作料ヲ其期限内ニ支拂ハザルトキハ地主ハ小作人ニ對シ換算金ニテ支拂ヲ請求スルコトヲ得。
其換算方法ハ香川縣穀物輸出検査所ノ調査ニ係ル毎年十二月中ノ三等米ノ賣買平均價格ヨリ一石ニ付金、錢ヲ減シタル金額ニヨリ算出スルコト。
- 四、小作人ハ天災其他不可抗力ニ因ル凶作ノ場合ニアラサレハ小作料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ズ。凶作ノ場合減額ヲ請求セントスルトキハ立毛刈取十五日前小作人ヨリ地主ニ申出テ双方立會ノ上檢見又ハ坪刈ヲ爲シ其減額歩合ヲ協定スルコト。
右協定調ハサルトキハ香川縣小作官ニ申請シ該裁定ニ對シテハ双方共ニ一任シ異議ヲ述ヘサルコト。
- 五、小作人ハ地主ノ書面上ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ小作地ノ原狀並使用方法ヲ變更シ又ハ小作地ノ轉貸ヲ爲スコトヲ得ス。
- 六、小作ノ權利ヲ讓渡爲サントスルトキハ豫メ地主ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス。
但地主ハ正當ノ理由ナクシテ小作人ノ要求ヲ拒ムコトヲ得ス。
- 七、前二項ニ違反シタルトキ(又ハ小作料ヲ滯納シタルトキ)地主ハ小作人ニ對シ其履行ヲ督促シ尙應セサルトキハ地主ノ請求次第小作人ハ異議ナク土地ノ原狀ニ復シテ地主ニ返還スルコト。
- 八、本件調停費用ハ双方各自辨ノコト。 以上

(2) 小作料減額ノ場合

- 一、地主ハ小作人ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ同目錄記載ノ小作料ニテ從前通引續小作セシムルコト。
- 二、小作契約ニ關スル右以外ノ條項ハ地方一般ノ慣習ニ從フヘキコト。
- 三、地主ハ小作人ニ對シ昭和何年度ノ小作料何石ヲ何石ニ減額シ小作人ハ右何石ヲ昭和何年何月何日限り地主宅ニ持參納入ノコト。
- 四、小作人ハ將來天災其他不可抗力ニ因ル凶作ノ場合ニハ立毛刈取十五日前小作人ヨリ地主ニ檢見又ハ坪刈ヲ申出テ双方立會ノ上其減額歩合ヲ協定スベク若シ右協定調ハザルトキハ双方又ハ一方ヨリ香川縣小作官ニ裁定ヲ申請シ其裁定ニハ双方異議ヲ述ヘサルコト。
- 五、本件調停費用ハ双方各自辨ノコト。 以上

(3) 土地返還ノ場合

- 一、小作人ハ地主ニ對シ郡村大字番地田…步ヲ現狀ノ儘昭和何年何月何日明渡返還スルコト。
- 二、地主ハ小作人ニ對シ右土地ノ甘土料並地上作物ノ補償トシテ金何圓ヲ昭和何年何月何日限り支拂フコト。
- 三、小作人ハ地主ニ對シ右以外ニハ前記土地ニ關シ何等ノ名義ヲ以テスルモ金員其他ノ要求ヲ一切爲サザルコト。
- 四、本件調停費用ハ双方各自辨ノコト。 以上

(4) 小作料支拂ノ場合

- 一、申立人ハ相手方ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ヲ一ケ年小作料何石ニテ從來通小作セシムルコト。

二、小作人ハ地主ニ對シ毎年度ノ小作料ヲ合格玄米ニテ其翌年一月末日限り地主宅又ハ村内ノ地主ノ指定セル場所ニ持參支拂フコト。

三、小作契約ニ關スル右以外ノ條項ハ地方一般ノ慣習ニ從フヘキコト。

四、地主ハ小作人ノ昭和何年度迄ノ未納小作料合計何石ヲ三等米又ハ一石金何圓ノ割合ニヨル換算金ヲ以テ昭和何年何月何日限り持參支拂フコト。

五、本件調停費用ハ双方各自辨ノコト。 以上

(5) 作離料、甘土料請求ノ場合

一、地主ハ小作人ニ對シ郡村大字番地田段歩ノ作離料(又ハ甘土料)金何圓ヲ昭和何年何月何日限り支拂フコト。

二、小作人ハ右以外ニ何等ノ請求ヲ爲サ、ルコト。

三、本件調停費用ハ双方各自辨ノコト。 以上

(6) 小作料改定ノ場合

一、小作人ハ地主ニ對シ別紙目錄記載ノ土地ニ付其小作料トシテ毎年左ノ通支拂フコト。

左記

土地等級	一ケ年反當小作料
一 等	一石二斗八升
二 等	一石二斗八升
三 等	一石二斗七升

四 等	一石二斗七升
五 等	一石二斗四升
六 等	一石二斗二升

- 七等以下ハ郡村農會審議會決定ノ年貢米ト舊年貢米(審議會改正前ノ年貢米)トノ左額ノ半分丈増加引上ケスルコト。
- 二、小作料算定ノ年度ハ毎年六月二十一日ヨリ翌年六月二十日ニ至ル迄ヲ一ケ年度トス。
- 三、本件契約ハ期間ノ定メナキ土地賃借契約トス。
- 四、相手方ニ於テ昭和十一年度以降ノ小作料ヲ毎年度翌年一月末日限り香川県生産合格玄米ヲ以テ申立人宅又ハ申立人ノ指定スル場所ヘ持参納入スルコト。
- 五、相手方カ前記期限内ニ小作料ノ支拂ヲ爲サ、ルトキハ申立人ハ相手方ニ對シ左記換算金ニテ小作料ヲ請求スルコトヲ得。
小作料ノ換算ハ高松市所在香川県穀物輸出検査所ノ調査ニ係ル毎年十二月中ノ三等合格玄米ノ賣買平均價格ヨリ一石ニ付金二十錢ヲ減シタル金額ニヨリ計算スルコト。
- 六、右賣買平均價格ハ右検査所又ハ官公署ノ證明書ニヨリ證明スルコト。
- 六、相手方ハ天災不可抗力ニ因ル凶作ノ場合ニアラサレハ小作料ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ス。凶作ノ場合減額ヲ請求セントスルトキハ立毛刈取十五日前相手方ヨリ申立人ニ申出テ双方立會ノ上坪刈又ハ其他ノ檢見ヲ爲シ其減額歩合ヲ協定スルコト。
- 右協定調ハサルトキハ何々村農會長申立人相手方代表ニテ協定ヲ爲スコト。
- 若シ右協定成ラサルトキハ双方又ハ一方ヨリノ申立ニ依ル香川縣小作官ニ一任シ該裁定ニハ双方絶對ニ服従スルコト。
- 七、相手方ハ申立人ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ左記ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ス。
- (イ) 賃借地ノ原狀及使用方法ヲ變更スルコト。

- (ロ) 賃借地ヲ轉貸又ハ他人ヲシテ使用セシムルコト。
- (ハ) 賃借權ヲ讓渡スルコト。
- 但申立人ハ正當ノ理由ナクシテ相手方ノ要求ヲ拒ムコトヲ得ス。
- 八、本件調停費用ハ双方各自辨ノコト。 以上

昭和十二年三月十五日 印刷
昭和十二年三月二十日 發行

編輯 香川縣經濟部

印刷者 田村市太郎
高松市南瓦町四一六ノ二

印刷所 日本印刷所
高松市南瓦町四一六ノ二

終

